

1. 特別研究会のご案内

日時： 11月22日(木) 6-8時

場所： 東京大学医学部3号館1階 S106

連絡先 [REDACTED] 保健社会学教室(山崎)

報告者： Dr. Guy Bäckman

Professor in Social Policy at Abo Akademi University,  
Finland

テーマ： "Life Control and Health"

2. 学会誌『保健医療社会学論集』第2号への投稿を、受け付けます。

投稿規定等は創刊号をご覧ください。ただし、投稿申し込みは2月5日、原稿〆切は、3月5日としております。来年の学会大会前には、発刊する予定です。投稿後1カ月は、査読と必要とあれば、修正・再投稿の期間に当てていますので、3月15日までの投稿は厳守です。ふってご投稿ください。(学会誌編集委員会)

3. 日本保健医療社会学会第124回月例研究会の報告

日時： 1990年 9月20日(木) 6:30-8:30p.m.

場所： 東京大学医学部3号館1階 S106

報告者： 木村和弘氏(日本赤十字社衛生部看護課)

テーマ： 深刻化する看護婦不足問題

- その構造的要因と今後のゆくえ -

当日は、近来まれにみる参加人員を得、白熱した議論が行われました。保健・医療社会学会も今や、少なくとも内実は保健・医療・看護社会学として発展させる必要があると実感させられる研究会になりました。つまり、看護領域に社会学的接近の求められる重要な問題がたくさんあり、にもかかわらず説明が立ち遅れていることを知らされた次第です。報告内容要旨を掲げました。要旨は報告者ご本人の執筆になるものです。(月例研究会担当理事)

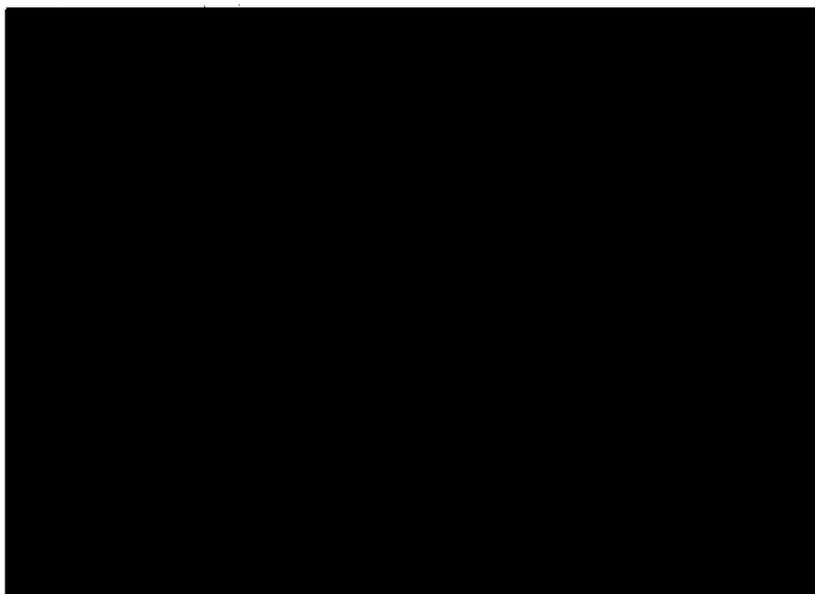
看護職能集団は、保健医療従事者の中で、いつの時代をとっても慢性的な人手不足の集団であり、その点で、今回ほど看護婦イコール“足りない”という第一印象をマスコミを通じて一般大衆社会へアピールさせた時は過去に例がないであろう。

ところで、看護マンパワー危機到来は、今回を含めてこれまで3回の波があり、その都度、行政側はこれらにリンクさせるかのように現在まで3回の看護婦需給対策を打ち出している。

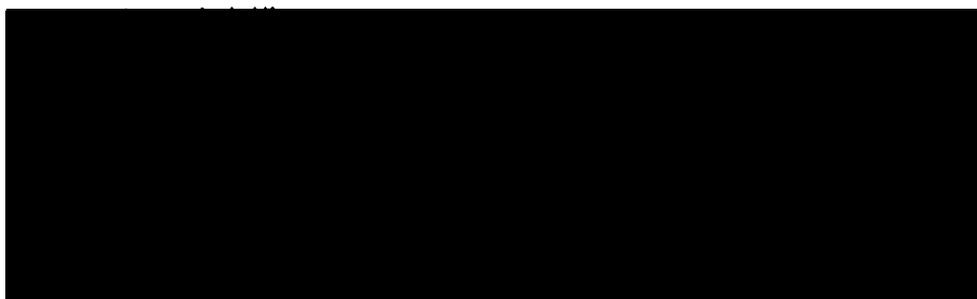
では、なぜこれまででも看護婦不足は解消するどころかますます深刻化するのであろうか。主な原因として低賃金、夜勤、女性職能集団、看護の曖昧性、18歳人口の減少、不統一な看護教育制度等があげられる。特にその構造的要因としては、資格の上では、准看、正看の二元構造をなし、学歴の区分では、准看護婦養成所卒、看護専門学校（3年課程）卒、短大卒、大卒といった四元構造化しているにもかかわらず、現状では学歴差による業務分化の確立がその途上にあるので、特に4年生大卒看護婦の場合、職務遂行上の満足感が得られ難く臨床の場からの離脱傾向が進み、教職に流れることが推測される。また、今後の行方として短大、大学化の傾向が進むにつれ、そこでの教員不足が新たな問題となるように思われる。特に短大、大学の教員不足の徴候は、その供給源が日本ではまだ少なく当面は顕著となるであろう。

ところで、看護短大、大学以外の看護教育機関は現在、厚生省所管の専修学校の位置付けであり、養成費については、病院の診療報酬に負っている現状を鑑みると、看護の自治独立を達成する意味からも養成過程での経済の独立がすなわち、私の提唱する「看護の社会化」につながるのではないかと考える。

4. 新会員（平成2年度）



5. 退会者（平成2年度）



6. 会費請求のお知らせ（事務局）

平成2年度分及び平成1年度以前の会費を納めていない方は、納めて下さい。よろしくお願いいたします。

1. 日本保健医療社会学会第125回月例研究会へのご案内

日時：1991年 1月25日（金） 6：30－8：30PM

場所：東京大学医学部3号館1階 S106

報告者とテーマ：

障害者と生命倫理に関する研究

－ その概観 －

稲垣貴彦氏（愛知県心身障害者フロンティア発達障害研究所社会福祉学部）

－ 具体的問題 －

小沢 温氏（同上）

2. 学会誌『保健医療社会学論集』第2号への投稿のご案内

（学会誌編集委員会）

投稿規定等は創刊号をご覧ください。

投稿申し込みは、葉書にて学会事務局に、2月5日までに、原稿ノ切は3月10日です（当初、3月5日としていましたが、変更しました）。

投稿後1カ月は、査読と修正・再投稿の期間に当てられます。

ふるってご投稿ください。

〒150 東京都渋谷区広尾4-1-3

日本赤十字看護大学 社会学研究室気付

日本保健医療社会学会事務局

3. 1990年度(1990年4月から1991年3月まで)の研究業績リスト作成のためのアンケートへのご回答のお願い

別紙の要領に従ってご記入の上、4月10日（水）まで（当日消印有効、厳守。それ以降のものは受け付けませんので、ご注意ください）に事務局宛てにご投函下さい。

# 日本保健医療社会学会ニュース

1991年2月14日（木）第3号発行

## 1. 日本保健医療社会学会大会の案内

新しい年を迎え、会員の皆様、お元氣でご活躍のことと存じます。

さて、本年度の学会の総会・シンポジウムは5月18日（土）に、日本大学医学部を会場として開催されるはこびとなりました。

先日の理事会で、シンポジウムの主題ならびに報告者についての協議がなされ、下記のような原案が作成されました。

また、昨年より、当日のシンポジウムを盛り上げ、また、出席出来ない方へのサービスとして、当日発表していただく内容を予め原稿にまとめて学会誌「保健医療社会学論集」にご寄稿頂くことをお願いしております。

### 保健医療社会学の今日的課題

脳死・臓器移植	---	杉田 聡
ターミナルケアと遺族のケア	---	川村佐和子
看護・介護とマンパワー	---	佐山光子
化学物質と健康	---	片平 彦
医薬品と食品添加物を中心として	---	片平 彦
IIS <sup>TM</sup> と薬物問題	---	仲尾 唯治
保健医療の目標と評価	---	野原 忠博

大会担当理事

園田 恭一

## 2. 学会誌「保健医療社会学論集」の投稿について

会員の論文の投稿を3月10日（水）まで投函下さいますようお願い申し上げます。

## 3. 大会の一般研究発表について

会員の一般研究発表を受け付けておりますので振るってご応募下さい。

## 4. 理事の選出について

別紙の要領にもとずいて理事の選挙を行いますので、投票して下さい。

## 日本保健医療社会学会ニュース

NO.4  
1991.4.8

発行：日本保健医療社会学会  
〒150 東京都渋谷区広尾4-1-3  
日本赤十字看護大学社会学研究室内  
(振替口座 東京4-40477)  
編集責任者：島村 忠義(庶務理事)

### 1. 選挙管理委員会報告について

1. 1991年2月15日-3月15日の期間に行われた理事及び会計監査の当選者は以下の通りであった。

新理事：園田 恭一(東京大学)  
島村 忠義(日本赤十字看護大学)  
西 三郎  
佐久間 淳(埼玉県立衛生短期大学)  
米林 喜男(順天堂大学)

新会計監査：木下 安子(白梅学園短期大学)  
平野 かよ子(日本赤十字看護大学)

### 2. 第17回 日本保健医療社会学会大会のお知らせ

1. 第17回 日本保健医療社会学会大会が1991年5月18日(土)日本大学医学部で開催されることが決定された。一般演題の申し込みは別紙で示したように、1991年4月末日までとし、申し込みは5月10までに事務局にお送り下さい。

2. 上記の大会のスケジュールは第14回理事会において、次の様に決定された。

午前10:00	一般演題報告	司会：杉沢秀博，友安直子（予定）
	↓	発表時間 10分 討論時間5分
	12:00	
午後 1:00	総会	
	↓	
午後 1:40		
	↓ 休憩	
午後 1:50	シンポジウム	司会：園田恭一，木下安子（予定）
	↓	コメンテーター：西三郎，山手茂，山崎喜
午後 4:50	大会終了	比古，福島道子（予定）

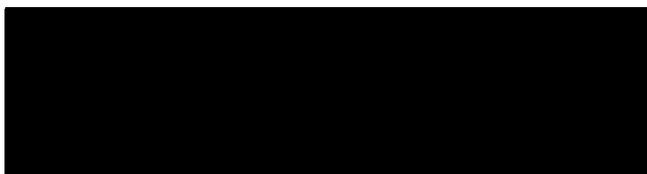
### 3. 出版物及び国際会議等のお知らせ

1. 日本保健医療社会学会編による「都市化・国際化と保健医療の課題 -都市生活の健康と福祉の充実をめざして-」が垣内出版から発刊された。別紙資料を参考の上，購入にご協力下さい。個人で購入する時，出版社のご好意により本代2700円（送料は別）で購入出来ます。よろしくお願ひします。（別紙資料参照）

2. 日本国際保健医療学会総会のパンフレットを同封しましたので，興味ある方をご参加下さい。（別紙資料参照）

### 4. 新会員の紹介と退会者

#### 1. 新会員の紹介



2. 退会者



5. その他

1. 会費納入のお願い

平成3年度の会費未納者はよろしくお願ひ申し上げます。なお、前年度未納者の方もよろしくお願ひ致します。

なお、年会費は4000円です。

日本保健医療社会学会第126回月例研究会へのご案内

日時：1991年4月26日（金） 6：30－8：30PM

場所：東京大学医学部3号館1階 S106

連絡先：東京大学医学部保健社会学教室 山崎

報告者とテーマ：  


ソーシャル・サポートの構成概念と尺度開発

野口 裕二 氏（東京都老人総合研究所社会学部門）

## 日本保健医療社会学会ニュース

NO.5

1991.5.3

発行：日本保健医療社会学会

〒150 東京都渋谷区広尾4-1-3

日本赤十字看護大学社会学研究室内

(振替口座 東京4-40477)

編集責任者：島村 忠義 (庶務理事)

### 1. 第17回 日本保健医療社会学会大会のお知らせ

1. 前回の学会ニュースでお知らせしたように、1991年5月18日(土)日本大学医学部(案内図は別紙参照)において第17回日本保健医療社会学会が開催されます。会員及び非会員の方をお誘いの上、ご参加下さい。大会参加費は会員及び非会員も1000円となっております。

大会のスケジュールは以下の予定となっております。

一般演題(午前10:00-12:00) [臨床講義]

1) 近畿6府県における都市化と70歳平均余命

古谷野 亘 (東京都老人総合研究所)

2) 医療における心療主義と物療主義

原田 克巳 (常葉学園浜松大学)

3) ねたきり老人の介護者における主観的保健感と生活満足度  
の変化とその関連要因に関する研究-3年間の追跡調査から-

○杉沢秀博 (東京都老人総合研究所)

杉沢あつ子 (東京大学)

中野いずみ (YMCA学院)

中村律子 (中京大学)

4) 中高年女性給食調理員の蓄積的疲労徴候に関する検討

加藤圭子 (日本赤十字看護大学)

5) 中小民間病院「看護婦」の職場移動に関する意識と実態

林 千冬 (千葉大学)

6)ケナストレスとVDT障害に関する保健上の諸問題

○島村忠義（日本赤十字看護大学）

芦沢正見（日本赤十字看護大学）

司会：杉沢 秀博（都老人研）

平野 かよ子（日赤看護大）

総会（午後1:00-1:40）【臨床講堂】

- 議題
- 1)議長団の選出
  - 2)前年度の事業報告と承認
  - 3)規約改正
  - 4)新会長の承認
  - 5)新理事の紹介
  - 6)新年度の事業計画
  - 7)その他

シンポジウム（午後1:50-4:50）【臨床講堂】

保健医療社会学の今日的課題

脳死・臓器移植----- 杉田 聡（東京大学）

ターミナルケアと遺族のケア----川村佐和子（東京医科歯科大学）

看護・介護とマンパワー-----佐山光子（埼玉県立衛生短大）

化学物質と健康-----片平列彦（東京医科歯科大学）

エイズと薬物問題-----仲尾 唯治（山梨学院大学）

保健医療の目標と評価-----野原 忠博（杏林大学）

司会：園田 恭一（東京大学）

木下 安子（白梅学園短期大学）

コメンテーター：西三郎，山手茂（東洋大学），山

崎喜比古（東京大学），福島道子（東洋大学）

懇親会（5:30-7:30）図書館地下食堂

参加者は「懇親会申し込み書」（別紙）にご記入の上、  
お送り下さい。参加費は3000円です。当日参加も可。

2. 新理事会の構成と役割分担（敬称，所属を略）

会長：園田 恭一理事（大会担当）総会にて承認の手続きが必要

副会長：西 三郎理事（渉外担当）

事務局：島村 忠義理事

財務担当：米林 喜男理事

出版担当：佐久間 淳理事

月例研究：波多野梗子理事

会担当

学会誌 担当：古谷野巨理事

担当

3. 国際会議のお知らせ

第12回東大国際シンポジウムのご案内について（別紙参照）同封しましたので，是非，ご参加下さい。

4. 新会員の紹介と退会者

1. 新会員の紹介



2. 退会者



5. 会費納入について

平成2年度までにまだ，未納者は至急納入をお願いします。

第17回 日本保健医療社会学会懇親会申し込み用紙

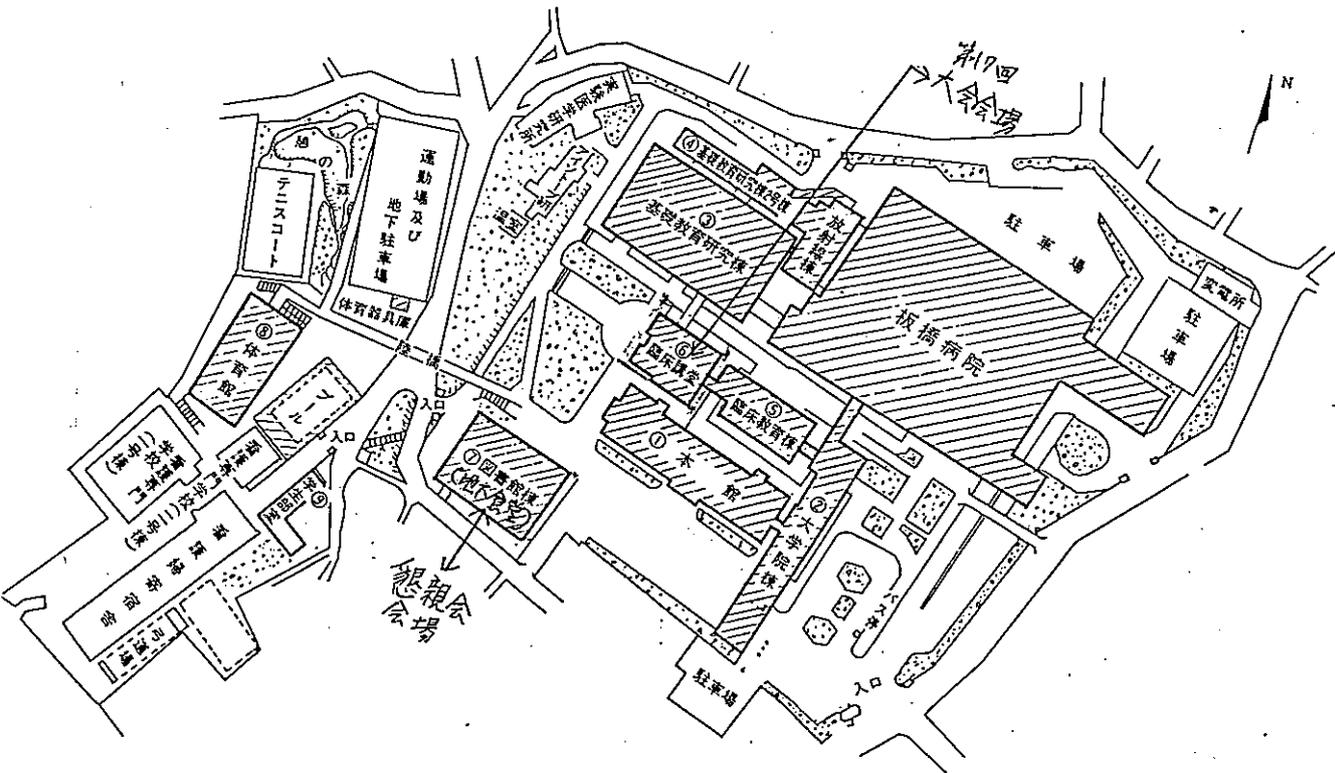
懇親会に      参加  
                    不参加

\*参加者は○印をつけ事務局に5月15日  
までに、お送り下さい。

なお、当日も受けつけます。

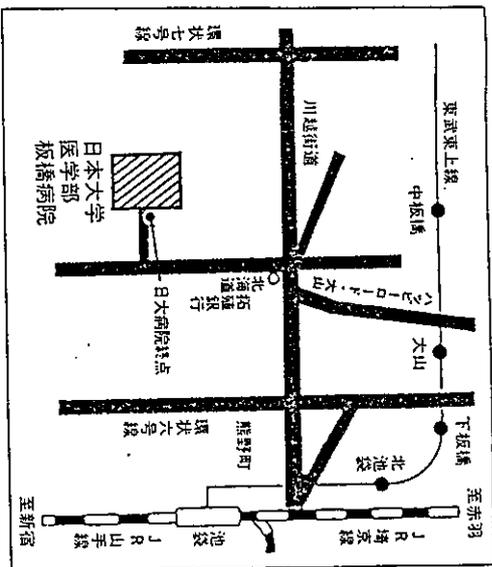
参加費は3000円です。当日参加も可。

第17回日本保健医療  
 社会学会大会・総会 配置図



日本大学医学部  
 東京都板橋区大谷口上町30-1

東武東上線：池袋駅——5分——大山駅下車 徒歩15分  
 国際興業バス：池袋駅——バス20分——日大病院下車



# 日本保健医療社会学会ニュース

NO.9

1992.1.6

発行：日本保健医療社会学会

〒150 東京都渋谷区広尾4-1-3

日本赤十字看護大学社会学研究室内  
(振替口座 東京4-40477)

編集責任者：島村 忠義 (庶務理事)

---

## 1. 第130回 月例研究会のお知らせ

- 1)1992年1月24日(金) PM6:30-8:30 東京大学医学部3号館 1F S106  
において、渋谷優子、佐山光子、木村和弘の各氏による「看護社会学  
の構築に向けて」による月例研究会を行いますのでご参加下さい。  
(詳しくは別紙参照)

## 2. 第18回日本保健医療社会学会大会のお知らせ

- 1)第18回日本保健医療社会学会大会が、1992年5月16日(土)医学部図  
書館333号室で開催されることが理事会で決定されました。大会のメ  
ジュールとしては以下の通り、予定しています。
- 午前10時— 会長講演「地域保健福祉計画と社会学」  
午前12時— 一般演題発表  
午後1時— 総会  
午後2時— シンポジウム「地域保健福祉計画の策定に向けて社会学  
は何ができるか」  
午後6時— 懇親会

## 3. 第18回日本保健医療社会学会大会一般演題の申し込みについて

- 1)1992年3月末日までに、一般演題申し込み用紙(別紙参照)にご記入  
の上、事務局へ申し込み下さい。発表の申し込みは4月末日までにお送り  
下さい。(別紙参照)

#### 4. 保健医療社会学論集の原稿応募について

1992年1月末日までに事務局までハガキに氏名、住所、電話番号、所属、身分、論文題目、予定ページ、論文の概略をご記入の上、1月末日までに投函をお願い致します。論文の締め切りは2月末日となっております。

#### 5. 会員の研究業績リスト作成のためのアンケートのお知らせ

会員の研究業績リストアンケートを1992年3月末日（アンケートの4月10日は3月末日に変更）に事務局まで、ご返送下さい。（別紙参照）

#### 6. 研究部会のお知らせ

##### 1)理論研究部会について

1991年12月18日（火）午後6.00から第1回運営委員会が開催され、運営方法、保健医療社会学の専門用語の概念及び整理等の問題が検討された。

##### 2)看護研究部会について

1991年12月21日（土）午後3.00から第一回研究部会が開催され、中川泉先生（日赤看護大学）から看護のデータベースについて報告があった。

次回は1992年3月14日（土）午後3-5.00 東京医科歯科大学  
「看護師からの現場報告」 寺尾政晃氏（国立立川病院）

#### 7. 会費納入のお願い

平成3年まで会費を納めていない方は会費納入をお願い致します。  
なお、平成3年までに会費を納めた方で、【保健医療社会学論集】第2号を手元にない方は事務局までご連絡下さい。

# 日本保健医療社会学会ニュース

NO.10  
1992.2.27

発行：日本保健医療社会学会  
〒150 東京都渋谷区広尾4-1-3  
日本赤十字看護大学社会学研究室内  
(振替口座 東京4-40477)  
編集責任者：島村 忠義 (庶務理事)

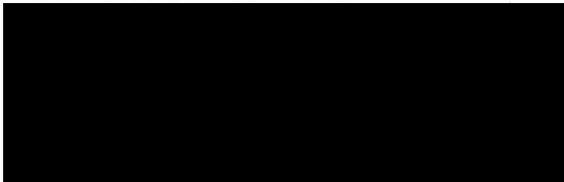
1. 第131回 月例研究会のお知らせ  
1992年3月10日(火) PM6.00-8.00 東京大学医学部3号館1F S106  
において、北原龍二氏(横浜国立大学)による「医療の現実-その中での看護・看護職者」の月例研究会を行いますので、ご参加下さい。  
(別紙参照)
2. 保健医療社会学論集の申し込みについて  
1992年1月末日の申し込み期限までに、保健医療社会学論集の呼びによる応募件数は9件ありました。
3. 第18回日本保健医療社会学会大会の一般演題(自由発表)の申し込み期限は1992年3月末日となっております。一般演題用紙にご記入の上、事務局へ申し込み下さい。
4. 会員の研究業績リスト作成のためのアンケート送付のお願い  
1992年3月末日が期限となっております研究業績リストのアンケートを事務局までお送り下さい。
5. 自由投稿欄の設置について  
自由投稿欄を設置し、会員の情報交換等に利用したいと思いますので事務局までお便りを寄せて下さい。(200字以内)

※ 13000円振込依頼有り 島村  
7/28

## 日本保健医療社会学会ニュース

NO.11  
1992.4.23

発行：日本保健医療社会学会  
〒150 東京都渋谷区広尾4-1-3  
日本赤十字看護大学社会学研究室内  
(振替口座 東京4-40477)  
編集責任者：島村 忠義 (庶務理事)

- 
1. 第18回 日本保健医療社会学会大会・総会のお知らせ  
1992年5月16日(土) 午前9.30-午後6.00 東京大学医学部図書館333号室(別紙参照)において開催しますので、ご参加下さい。  
大会参加費は1000円です。午後6時から医学部3号館S106で懇親会を開催します。会費は3000円となっております。(別紙参照)
  2. 一般演題の発表者へのお願い  
1992年3月末日までに9演題の申し込みがありました。(別紙参照)  
一般演題発表者は4月末日まで事務局宛て、リッポをお送り下さい。
  3. 国際会議のご案内
    - 1) 第3回保健医療社会学研究会が1992年6月4-5日間タイで開催されます。参加ご希望の方は日本大学医学部社会学教室姉崎正平研究室までご連絡下さい。(別紙参照)
    - 2) 日本国際保健医療学会総会が1992年9月19-20日間開催されます。(別紙参照)
  4. 新入会員の紹介  

  5. 会費納入のお願い  
平成3年度分までの会費納入をよろしくお願い致します。

## 日本保健医療社会学会ニュース

NO.12

1992.6.9

発行：日本保健医療社会学会

〒150 東京都渋谷区広尾4-1-3

日本赤十字看護大学社会学研究室内

(振替口座 東京4-40477)

編集責任者：島村 忠義 (庶務理事)

---

### 1. 第132回 月例研究会のお知らせ

- 1)1992年6月26日(金)PM6:30-8:30 東京大学医学部3号館 1F S106  
において、ノースカロライナ大学の臨床助手であるマイク フェアズ氏を迎えて「リテンションのみたターミナルケア」について研究会を行いますのでご参加下さい。(詳しくは別紙参照)

### 2. 第18回日本保健医療社会学会大会の報告

- 1)第18回日本保健医療社会学会大会が、1992年5月16日(土)医学部図書館333号室で開催され、会員、非会員を含め約70名の参加のもとに一般演題、シンポジウム、理論及び看護研究部会におけるワークショップ等において白熱した討議が展開された。一般演題も9件の申し込みがあり次年度の大会においても活発な研究発表を期待したいと思います。次年度(第19回大会)の大会は東京都老人総合研究所の講堂で開催されることが総会において決定されました。

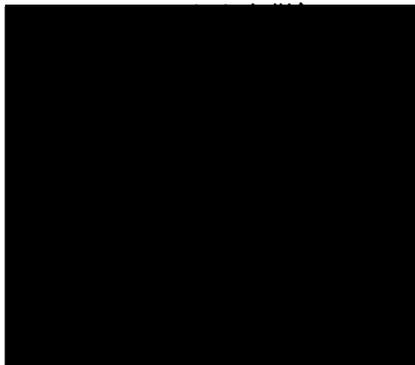
### 3. 第18回大会の資料送付について

- 1991年度の決算報告、1992年度予算報告、保健医療社会学論集第3号大会に参加出来なかった会員にお送りしました。

#### 4. 平成4年度の会費納入のお知らせ

平成4年度の会費納入について、未納の会員は後日請求致しますので  
よろしくお願ひ致します。なお、平成3年度以降、会費未納の会員  
も至急、納入して下さい。

#### 5. 新会員の紹介



#### 6. 退会会員



# 日本保健医療社会学会ニュース

NO.13

1992.10.9

発行：日本保健医療社会学会

〒150 東京都渋谷区広尾4-1-3

日本赤十字看護大学社会学研究室内

(振替口座 東京4-40477)

編集責任者：島村 忠義 (庶務理事)

---

## 1. 第133回 月例研究会のお知らせ

1992年10月28日(水) PM6:30-8:30 東京大学医学部3号館1F S106

において、日本大学医学部姉崎正平教授を迎えて「フランスの開業看護婦」について研究会を行いますので、万障お繰り合わせの上、ご参加下さい。  
(詳しくは別紙参照)

## 2. 第7回日本保健医療社会学会看護研究部会のお知らせ

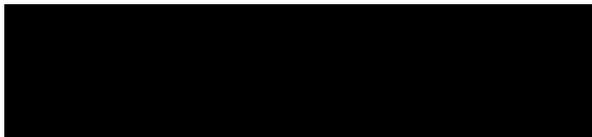
第7回看護研究部会を1992年11月21日(土)、東京医科歯科大学医学部3号館9階セミナー室で、日本赤十字社の木村和弘氏による「日赤看護教育100年の歩み」について研究会を行います。どなたでも自由にご参加下さい。

## 3. 平成4年度会費納入のお願い

平成4年度及び平成4年度以前の会費未納の会員は、会費納入にご協力下さい。

なお、平成3年及び4年度の会費を納入した会員で保健医療社会学論集3号を受け取っていない方は事務局までご連絡下さい。

## 4. 新入会員紹介



# 日本保健医療社会学会ニュース

NO.15  
1993.2.16

発行：日本保健医療社会学会  
〒150 東京都渋谷区広尾4-1-3  
日本赤十字看護大学社会学研究室内  
(振替口座 東京4-40477)  
編集責任者：島村 忠義 (庶務理事)

## 1. 次期理事及び会計監査に関する選挙のお知らせ

1993年2月9日の理事会において、選挙管理委員として萩原康子、朝倉木綿子の両氏にお願いすることになり、両氏から快諾が得られました。同封の別紙【日本保健医療社会学会理事の選挙について】及び【被選挙権有資格者名簿】をご参照のうえ、1993年（平成5年）3月16日（火）〈当日消印有効〉までに投票用紙を同封の封筒にて事務局までお送り下さい。

## 2. 第19回 日本保健医療社会学会大会のお知らせ

第19回日本保健医療社会学会大会が1993年5月22（土）-23日（日）の2日間、東京都老人総合研究所【東京都養育院講堂】で開催されます。別紙大会プログラムを同封しましたので、会員の所属機関等への掲示にご協力下さい。

## 3. 第19回 日本保健医療社会学会大会【一般研究報告】応募について

一般研究報告の演題を受け付けておりますので、前回のニュースで同封した「一般演題申し込み用紙」に記入し、1993年3月末日までに事務局までお送り下さい。

4. 第134回 月例研究会のご案内

1993年3月22日、午後6時30分-8時30分、東京大学医学部3号館S106で  
アソ・デック講師による「スウェーデンにおける老人観-スウェーデンと日本の違い-」に  
ついて研究会を開催します。会員及び非会員の方も振るって参加して下  
さい。(別紙参照)

5. 第9回 看護研究部会月例研究会のお知らせ

1993年3月13日(土)午後3.00-5.00、東京医科歯科大学医学部3号館  
9階セミ室において埼玉県立衛生短期大学 佐山光子講師による「アメリカの  
看護事情」というテーマで開催されます。会員及び非会員の方も振るって参  
加して下さい。

6. 会員の研究業績リスト作成について

前回のニュースでお知らせしましたように、アンケートの締め切りは1993年2月末  
日です。未提出の方は至急、事務局までお送り下さい。

7. 日本行動科学・医学会に関するお知らせ

健康と疾病に関する社会心理的、行動科学的及び医学生物学的知見と技  
術を集積統合することを目的とする学際的学術団体を目指す日本行動科  
学・医学会では個人及び学会諸団体の参加を求めています。上記の学会  
に関心のある方は事務局まで、ご連絡下さい。

8. 新入会員の紹介

佐藤 栄子(日本赤十字看護大学)

# 日本保健医療社会学会ニュース

NO.16  
1993.4.22

発行：日本保健医療社会学会  
〒150 東京都渋谷区広尾4-1-3  
日本赤十字看護大学社会学研究室内  
(振替口座 東京4-40477)  
編集責任者：島村 忠義（庶務理事）

---

## 1. 理事及び会計監査の選挙結果について

### 1) 新理事

山手 茂（東洋大学）  
姉崎 正平（日本大学）  
山崎喜比古（東京大学）  
宗像 恒次（筑波大学）  
古谷野 亘（東京都老人総合研究所）

### 2) 会計監査

芦沢 正見  
木下 安子（白梅学園短期大学）

選挙は公平に行われ、上記の理事及び会計監査が当選されたことをご報告致します。

### 選挙管理委員

萩原 康子（東京国際大学）  
朝倉木綿子（東京都老人総合研究所）

3) 日本保健医療社会学会規約第11条2項により当選した新理事の会議において、下記の2名が新理事に選出されました。

大島 巖（東京都立大学）  
渋谷 優子（東京医科歯科大学）

2. 第19回日本保健医療社会学会大会のお知らせ

1)大会のプログラムができました。(別紙参照)

2)一般報告のテーマ及び発表時間

報告者は4月末日までに[B5版用紙1枚、ワ70で上下左右25mmの余白をとり]事務局までお送り下さい。

一般報告の発表時間は12分で、討論時間は3分を予定しています。

3)本年度から大会の資料代(参加費)は2000円となりました。

4)懇親会の会費は3000円です。会員の参加を期待します。(別紙参照)

3. 関連学会開催のお知らせ

1)日本行動科学・医学会への個人及び団体の参加を求めています。関心のある方は事務局までご連絡下さい。

2)国際社会学会精神保健会議のお知らせ

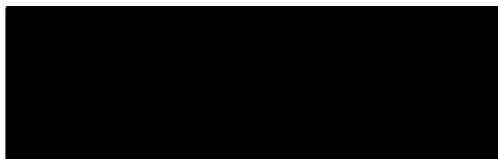
1993年8月23日AM9.00-PM5.00、千葉県幕張メッセで国際社会学会精神保健会議が開催されます。(別紙参照)

3)第8回日本国際保健医療学会総会開催のお知らせ

1993年8月28日(土)-29日(日)においてJALビルにおいて開催されます。(別紙参照)

4. 新会員の紹介および退会者のお知らせ

1)新会員の紹介



2)退会者



# 日本保健医療社会学会ニュース

NO. 18  
1993. 11. 17

発行：日本保健医療社会学会  
〒173 東京都板橋区  
大谷口上町30-1  
日本大学医学部  
社会学研究室内

(振替口座 東京4-40477)

編集責任者：姉崎 正平  
(総務理事)

## 1. 月例研究会のお知らせ

日 時：1993年11月26日（金）午後6時30分～8時30分

場 所：東京大学医学部3号館1階 S106

テーマ：合評会

園田恭一（編集代表）『保健社会学Ⅰ 生活・労働・環境問題』

『保健社会学Ⅱ 保健行動・健康教育』（有信堂、1993年）

——日本保健医療社会学における一つの到達と今後の課題——

報告者：編者：著者

討論者：木下 安子 先生（白梅女子短期大学）

姉崎 正平 先生（日本大学医学部）

## 2. 第12回看護研究部会月例研究会のお知らせ

日 時：1993年11月27日（土）午後3時～5時

場 所：東京医科歯科大学医学部3号館9Fゼミ室

テーマ：『1990年代におけるアメリカの看護婦不足』

（アメリカ看護協会出版）

上記の翻訳作業を現在研究会において進めておりますので  
興味のある方はご参加下さい。

事務局：日本赤十字社企画広報室 木村 和弘

機関誌『保健医療社会学論集』の投稿論文募集

本学会の機関誌『保健医療社会学論集』第5号（1994年5月刊行予定）に掲載する論文の投稿を募集しています。投稿をお考えの会員は、12月末日までにハガキで申込みをされたうえ、明年1月末日までに論文の原稿をお送り下さい。申込みのハガキには、氏名、住所、電話番号、所属、論文題目、予定頁数と内容の概略をお書き下さい。また、『保健医療社会学論集』はオフセット印刷により発行しておりますので、原稿は、第4号に掲載されている執筆要領にしたがってご準備下さい。

申込みハガキと原稿の送付先、および問い合わせ先は次の通りです。

〒173 板橋区栄町35-2

東京都老人総合研究所社会学部門 土谷野 亘（編集担当理事）

会費未納の方は郵便振替で納入して下さい！

NO. 21

1994. 4. 18

発行：日本保健医療社会学会

〒173 東京都板橋区

大谷口上町30-1

日本大学医学部

社会学研究室内

第20回日本保健医療  
社会学会大会特集

振替口座 東京4-40477

編集責任者 姉崎正平

大会事務局は大会前日まで学会事務局、開催中は東洋大学 (総務理事)

第20回日本保健医療社会学会大会プログラム

開催日 1994年5月14・15日(土、日)

会場 東洋大学 (〒112 東京都文京区白山5-28-20)

都営地下鉄三田線「白山」駅下車、白山通り徒歩3分

JR巢鴨駅南口都営バス浅草寿町または一橋行き「東洋大学前」停留所  
下車直ぐ

大会参加費 会員：3,000円 (事情により会費を最初の発表と

非会員：3,500円 変更させていただきます)

学生：1,000円

懇親会費 4,000円

第1日 5月14日(土)

一般報告 (1題報告15分、質疑応答5分) 10時~12時15分

一般報告A

教室 1206

司会者 西 三郎

1. 日本人の海外生活適応の実態とその関連要因に関する研究

○江川 緑 東京工業大学

山崎喜比古 東京大学

E. Roosens Catholic Univ.  
of Leuven

2. テクノストレス及びVDT障害と家族危機に関する研究

○島村 忠義 日本赤十字看護大学

芦沢 正見 平和学院看護学校

内山喜久雄 放送大学

馬場 茂樹 秋草学園短期大学

3. 思春期の性行動と援助のあり方 —とくに助産婦の視点から—  
岸田 泰子 国立公衆衛生院
4. 神経性難病患者に対する地域リハビリテーション活動の評価  
—愛知県K保健所の実践から— 小沢 温 国立リハビリテーション・センター
5. 大学病院における癌告知の実態  
—癌告知を阻害している要因についての一考察—  
近藤 暁子 慶応義塾大学病院
6. 終末期医療に対する医学生と看護学生の意識調査  
—第1報・延命医療とホスピスケアの選択における一考察—

西脇 智子 聖路加看護大学

一般報告B

教室 1210

司会者 杉 政孝

1. 非営利組織の財源についての社会的考察 近藤 順茂 三菱信託銀行
2. 病院未建設問題をめぐるレトリック 馬込 武志 仏教大学
3. 都道府県別にみた3歳児歯科保健水準の時系列変化  
—社会生活統計指標との関連性— 片山 剛 岩手歯科大学
4. 市町村広報における保健・医療情報掲載の発達とその意義について  
本郷 敏郎 弘前学院大学
5. 日本の医師の中のキャリアの研究(その2)  
—日本医師会総会会頭と日本医師会長— 中野 進 京都四条病院
6. 在宅療養における主介護者への援助 ○金井 悦子 日赤武蔵野女子短大  
池ヶ谷紀子 武蔵野赤十字病院  
田中 恭子 同上

昼 休 12時15分～13時10分

総 会 13時10分～13時40分

会長講演 13時45分～14時15分

教室 1206

司会者 芦沢 正見 元本学会会長

「国際家族年と保健医療社会学の課題」 山手 茂 東洋大学

シンポジウム 14時20分～17時20分 教室 1206

司会者 渋谷優子(東京医科歯科大学)

岡村清子(東京都老人総合研究所)

「保健医療における家族支援」

家族看護学の理論と実際

患者教育における家族

精神障害者と家族

障害高齢者と家族

指定討論者

野島佐由美(高知女子大学)

川田智恵子(東京大学)

大島 巖(東京都立大学)

杉沢秀宏(東京都老人総合研究所)

波多野梗子(東京医科歯科大学)

小田利勝(徳島大学)

懇 親 会 17時30分～19時

会場 1号館2階 第3会議室

第2日 5月15日(日)

一般報告 (1題報告15分、質疑応答5分) 10時~12時15分

一般報告C

教室 1206

司会者 篠野 脩一 淑徳大学

1. 高齢化社会に関する人々の事実誤認 — 「高齢化社会クイズ」 —

小田 利勝 徳島大学

2. 都市部における老人の転居とその影響 ○古谷野 亘 東京都老人総合  
研究所

安藤 孝敏 同

渡辺収一郎 同

杉澤あつ子 国立精神・神経  
センター

3. 長期入院老人の身体的・精神的健康状態と家族の在宅療養意向

○長谷川万希子 東京都老人総合  
研究所

縦野 香苗 東京大学

橋本 勉生 同

4. 高齢入院患者の退院先に影響を及ぼす要因について

—入院時の初期情報から—

辻坂 千代 関西学院大学

5. 在宅高齢者の介護とサポート

早川 岳人 立命館大学

6. 住民組織による対高齢者活動の活性化する条件

—担い手との面接結果から—

福島 道子 日本赤十字

武蔵野女子短大

昼休 12時15分~13時10分

分科会 13時10分~15時10分

理論部会ミニ・シンポジウム

教室 1210

司会者 園田 恭一 東洋大学

朝倉 隆司 東京学芸大学

「新しい健康観とその測定をめぐって」

1. QOLとその評価

報告者 朝倉 隆司 東京学芸大学

2. 自己評価と調査・測定

佐久間 淳 埼玉県立衛生

—住民検診の結果を通して—

短期大学

3. 健康都市と健康指標

佐藤 林正 東京都立医療

短期大学

討論者 深谷 太郎 東京都老人総合  
研究所

看護部会ミニ・シンポジウム

教室 1206

司会者 北原 龍二 横浜国立大学

「変貌する看護職 —看護職は女性固有の職業か—」

報告 (1)看護職の専門性に対する評価と期待 植田悠紀子 国立公衆衛生院

(2)看護職における男性の進出と可能性 川野 雅資 杏林大学

ディベート・テーマ:「看護職は女性固有の職業」

賛成派: 佐山光子 (新潟大) 木村和弘 (日本赤十字) 岩森龍夫 (東京電機大)

反対派: 林千冬 (東京大) 島村忠義 (日本赤十字看護大) 友安直子 (日本大)

## 2. 日本社会学会大会での「テーマ・セッション」について

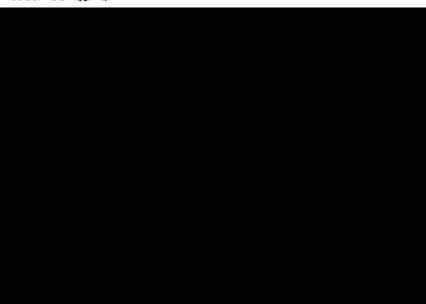
11月5日(土)・6日(日)に京都の同志社大学で開催される「第67回日本社会学会大会」において、園田恭一会員(東洋大学教授)をコーディネーターにしたテーマ・セッション「保健医療のプロフェッション」がもたれることになりました。テーマ・セッションではテーマに関連する報告を誰でも自由に申し込みます。本学会に関連が深いこのテーマに多くの会員の方々がふるって報告をお申し込み下さい。4月下旬に発行される「社会学会ニュース」で報告募集がされます。申込みの締切りが5月20日、報告要旨の締切りが6月30日の予定です。

## 3. 第36回日本老年社会科学学会大会のお知らせ

上記大会が9月29日(木)・30日(金)に新潟県長岡市の長岡グランドホテルで開催されます。シンポジウム「21世紀の高齢者援助」と一般報告があり、一般報告申込みの締切りが5月10日、抄録締切りが7月15日です。連絡先は〒940-21 長岡市深沢町2302-1, 特別養護老人ホーム わらび園内 日本老年社会科学学会第36回大会事務局

## 4. 会員異動

新入会員



退会会員



## 5. 会費納入のお願い

4月から新会計年度になりました。会費の納入をお願いいたします。

なお、郵便振替口座番号が5月から下記のとおり変更になります。

現在(4月30日まで)の口座番号 東京 4-40477

5月からの口座番号 00140-6-40477

# 第20回日本保健医療 社会学会大会成功裏に終わる

振替口座 00140-6-40477

編集責任者 姉崎正平

(総務理事)

## 1. 第20回日本保健医療社会学会大会・総会について

### (1) 第20回大会報告

第20回日本保健医療社会学会大会は1994年5月14(土)と15日(日)の両日、東洋大学白山校舎で開催されました。参加者は115名と初めて100名の大台(?)を越え大会新記録となりました。一般報告16演題、シンポジウム「保健医療における家族支援」、理論部会ミニ・シンポジウム「新しい健康観とその測定をめぐる」、看護部会ミニ・シンポジウム「変貌する看護職—看護職は女性固有の職業か—」、そして、山手茂会長による会長講演「国際家族学と保健医療社会学の課題」と大変充実した内容で盛会でありました。さらに、懇親会では会員相互の親睦と交流が深められました。

なお、大会会計が独立採算制となり、今回の収入は大会参加費などで合計472,000円、支出は会場費など398,444円、差引73,556円の剰余金が生じ、学会会計に組み入れられました。

今回の大会の成功と上記剰余金の学会会計への組み入れについて、大会実行委員長園田恭一東洋大学教授、本学会長山手茂東洋大学教授に深甚の謝意を表したいと思います。

また、今回の大会に関連して、注目されたのは、日本看護協会出版会、医学書院、メヂカルフレンド社などが発行する雑誌やPR誌に大会の予告が掲載されたことです。これらが大会の盛況の一因になったと思われ、PRの重要性が再認識されました。

### (2) 第20回総会報告

第20回総会は、大会第1日目の13時10分から小田利勝徳島大学教授を議長に選出して開催されました。姉崎正平総務理事から、1993年度事業報告、1994年度事業計画案、規約改正案の説明、大島巖財務担当理事から1993年度決算報告、1994年度予算計画案の説明、他の理事から担当関連事項の説明、そして、質疑応答の後、全議案は提案通り可決されました。

総会での報告および議事事項の概略は以下の通りでありました。

議事次第

- 第1号議案 1993(平成5)年度事業報告
- 第2号議案 1993(平成5)年度決算報告
- 第3号議案 1994(平成6)年度事業計画(案)
- 第4号議案 1994(平成6)年度予算計画(案)
- 第5号議案 規約改正(案)
- その他

1993(平成5)年度事業報告

1. 第19回日本保健医療社会学会大会・総会開催
2. 保健医療社会学論集第4号発刊
3. 月例研究会開催
4. 研究部会開催
5. 日本保健医療社会学会ニュース発刊
6. その他

1994(平成6)年度事業計画

1. 第20回日本保健医療社会学会大会・総会東洋大学で開催
2. 保健医療社会学論集第5号発刊、6号発刊準備
3. 月例研究会開催
4. 研究部会開催
5. 日本保健医療社会学会ニュース発刊
6. 役員改選・会員名簿整備
7. 日本社会学大会でのテーマ・セッション
8. その他

1993(平成5)年度決算報告

自1993年4月1日 至1994年3月31日

単位: 円

取 入 の 部				支 出 の 部			
費 目	予算額	決算額	差 異	費 目	予算額	決算額	差 異
前期繰越金	362,917	362,917	0	印刷製本費	250,000	169,000	81,000
会費収入	400,000	461,000	△61,000	連絡通信・交通費	190,000	117,453	12,547
総会参加費	50,000	212,000	△162,000	謝金	150,000	135,000	15,000
学会誌刊行物売上	10,000	35,000	△25,000	消耗品費	80,000	56,369	13,631
受取利息	4,500	4,494	6	会議費	100,000	43,033	56,967
雑収入	0	5,000	△5,000	予備費	20,000	0	20,000
				小計	790,000	524,855	205,145
				次期繰越金	97,417	555,556	△458,139
合 計	827,417	1,080,411	△252,994	合 計	827,417	1,080,411	△252,994

1994 (平成6) 年度予算

自1994年4月1日 至1995年3月31日

収 入 の 部		支 出 の 部	
前期繰越分	555,556	印刷製本費	380,000
会費収入 (@4,000×180名分)	720,000	(学会論集、学会ニ-ス、名簿、等)	
学会論集等売上	35,000	連絡通信・交遊費	160,000
受取利息	5,000	謝 金 (事務局アシスタント、研究会外部講師、等)	200,000
		消耗品費	80,000
		会 費 費	100,000
		大会・総会補助費	50,000
		予備費	20,000
		小計	990,000
		次期繰越金	325,556
合 計	1,315,556	合 計	1,315,556

規約改正

第1条

旧：2. 本会の英文名は、The Japanese Society of Health and Medical sociology.

新：上記項目に「とする。」を加える。

第3条 本会は前条の目的を達するため、次の事業を行う。

新：3. 「研究部会」を加える。

旧：4. 会報の報告

新：4. 機関誌『保健医療社会学論集』の発行

第11条

旧：5. 理事会は、庶務、財務、月例研究会、会報、大会、出版、渉外の各担当理事を互選する。

新：上記項目を削除する。

第13条

旧：理事会は会長がこれを召集する。

新：理事会は会長がこれを招集する。

第14条

旧：総会は毎年1回開催するものとし、会長がこれを召集する。

新：総会は毎年1回開催するものとし、会長がこれを招集する。

第6章

旧：付則

新：規約改正

旧：第20条 本会の事務局は当分の間、日本赤十字看護大学社会学研究室に置く。

新：付則1 本会の事務局は当分の間、日本大学医学部社会学研究室に置く

旧：第21条 本会則は1989年4月1日より施行する。

新：付則2 本規約は1994年4月1日より改正施行する。

2. はがき版会員カード導入について — 1枚は直ぐに返送！

入会を含めた本学会々員の異動の迅速、かつ、正確な把握、それによる通信連絡の確実性、さらには、本学会の活動の発展を図るため、はがき版会員カード3枚を同封しました。そのうち1枚は必要事項を記入し、直ぐに返送し、他は変更届け、あるいは、周囲の入会希望者用です。さらにこの会員カードを必要とされる方は事務局までお申し込み下さい。

3. 月例研究会のお知らせ

日 時：1994年9月28日（水）午後6時30分～8時30分

場 所：東京大学医学部3号館会議室（S106号室）

テーマ：「ISA（国際社会学会）およびエイズ国際会議における  
保健医療社会学研究の動向」

報告者：宗像 恒次氏（筑波大学） 追加発言者：芦沢 正見氏

4. 会 員 異 動：新入会員



5. 機関誌『保健医療社会学論集』投稿論文募集について

今年度より投稿は常時受け付けとなりましたので、お早めにご投稿下さい。

投稿と問い合わせは下記古谷野亘機関誌担当理事宛にお願いいたします。

〒173 板橋区栄町35-2

東京都老人総合研究所 社会学部門 古谷野 亘



6. 会費納入のお願い

今年度分までの会費として納入していただきたい分の金額を記入した郵便振替用紙を同封いたしましたので、お早めに納入して下さい。なお、行き違いがあればご容赦下さい。

7. 日本社会学会に本学会から理事を送りこもう！

日本社会学会の理事選挙が近々行われます。同学会員を兼ねている本学会員の方々には本学会員からの理事選出をご配慮いただくことを期待いたします。

# 日本保健医療社会学会ニュース

NO. 27

1995年8月1日

発行：日本保健医療社会学会

〒173 東京都板橋区

大谷口上町30-1

日本大学医学部

社会学研究室内

暑中お見舞い申し上げます

第21回日本保健医療

社会学会大会

成功裏に閉幕！

振替口座 00140-6-40477

編集責任者 姉崎正平

(総務理事)

## 1. 第21回日本保健医療社会学会大会・総会について

### (1) 第21回大会報告

第21回日本保健医療社会学会大会は1995年5月13(土)と14日(日)の両日、日本大学医学部で開催されました。参加者は92名でした。一般報告17演題、山手茂会長による基調講演を含めたシンポジウム「保健・医療・福祉の改革と専門職種」、新機軸としてラウンド・テーブル・ディスカッション「保健医療社会学の未来」、ディベート形式で看護研究部会ミニ・シンポジウム「臨床現場の立場から看護大学教育の功罪」と前年大会と同様の規模と内容で、学会大会として定着の傾向が見られました。そこで、今後はマンネリ化に陥らないように注意しなければならないかと思われます。次の第22回大会は東京大学保健社会学教室のお世話で1996年5月18日(土)・19日(日)の両日東京大学山上会館で開催が予定されており、飛躍が期待されます。今大会の当番である日本大学医学部社会学教室肝入りの懇親会では会員・参加者相互の親睦と交流が深められました。

なお、今回の大会会計は略取支均衡となりました。

### (2) 第21回総会報告

第21回総会は、大会第1日目の17時から萩原康子会員を議長に選出して開催されました。姉崎正平総務理事から、1994年度事業報告、1995年度事業計画案、大島巖財務担当理事から1994年度決算報告、1995年度予算計画案の説明、他の理事から担当関連事項の説明、そして、全号でお知らせした新理事とその職務分掌、監事の紹介、質疑応答の後、新役員人事を含め全議案は提案通り可決されました。最後に、園田恭一新会長の就任挨拶がありました。

総会での報告および議事事項の概略は以下の通りでした。

## 第21回総会議事次第

- |       |                    |
|-------|--------------------|
| 第1号議案 | 1994(平成6)年度事業報告    |
| 第2号議案 | 1994(平成6)年度決算報告    |
| 第3号議案 | 1995(平成7)年度事業計画(案) |
| 第4号議案 | 1995(平成7)年度予算計画(案) |
| 第5号議案 | 新役員の承認と学会長推薦       |

## 1994(平成6)年度事業報告

1. 第20回日本保健医療社会学会大会・総会東洋大学で開催
2. 保健医療社会学論集第5号発刊
3. 月例研究会開催
4. 看護研究部会の活動
5. 日本保健医療社会学会ニュース26号までの発刊
6. 役員改選
7. その他

## 1995(平成7)年度事業計画

1. 第21回日本保健医療社会学会大会・総会日本大学医学部で開催  
第22回日本保健医療社会学会大会・総会東京大学保健社会学教室当番で1996年5月18日(土)・19日(日)開催予定準備
2. 保健医療社会学論集第6号発刊、7号を新編集委員会制度で発刊準備
3. 月例研究会開催
4. 研究部会開催
5. 日本保健医療社会学会ニュース発刊
6. 新役員の仕事分掌
7. 本学会での著書出版計画
8. その他

日本保健医療社会学会 1994年度決算報告書

自1994年4月1日 至1995年3月31日

単位：円

収入の部				支出の部			
費目	予算額	決算額	差異	費目	予算額	決算額	差異
前期繰越金	555,556	555,556	0	印刷製本費	380,000	317,510	62,490
会費収入	720,000	998,000	△278,000	連絡通信・交通費	160,000	169,622	△9,622
学会誌刊行物売上	35,000	29,000	6,000	謝金	200,000	157,000	43,000
受取利息	5,000	6,319	△1,319	消耗品費	80,000	44,252	35,748
大会会計繰入れ		73,556	△73,556	会議費	100,000	63,972	36,028
雑収入		50,004	△50,004	大会・総会補助費	50,000	0	50,000
				費返金	0	2,000	△2,000
				予備費	20,000	0	20,000
				小計	990,000	754,356	235,644
				次期繰越金	325,556	958,079	△632,523
合計	1,315,556	1,712,435	△396,879	合計	1,315,556	1,712,435	△396,879

日本保健医療社会学会 1995年度予算

自1995年4月1日 至1996年3月31日

単位：円

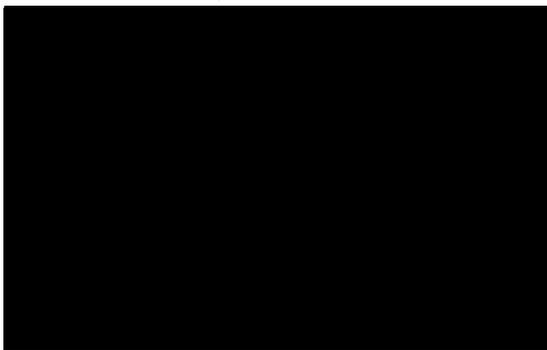
収入の部		支出の部	
前期繰越分	958,079	印刷製本費	380,000
会費収入	800,000	(学会論集、学会ニュース、名簿、等)	
(@4,000×200名分)		連絡通信・交通費	140,000
学会誌刊行物売上	30,000	謝金	200,000
受取利息	7,000	(事務局アシスタント、研究会外部講師、等)	
		消耗品費	80,000
		会議費	100,000
		大会・総会補助費	50,000
		予備費	50,000
		小計	1,000,000
		次期繰越金	795,079
合計	1,795,079	合計	1,795,079

## 2. 第3回国際保健医療行動科学会議共催の申し入れについて

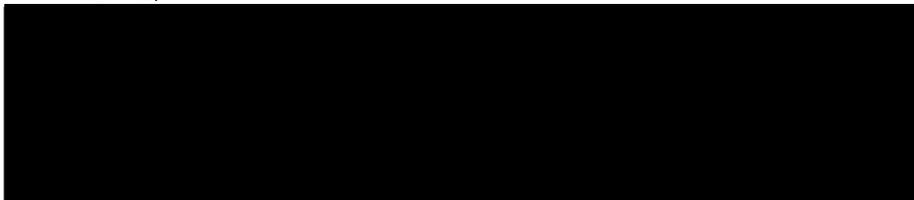
来年1996年9月27～29日の3日間、東京の上智大学で上記国際会議開催が予定されていますが、本学会が共催団体となるよう上記国際会議の主催者より申し入れがありました。それは上記開催期間の一部を国際社会学会の第15研究分科会「保健社会学」の公認会議にして、本学会がその進行に当たるのが適当と考えられるためです。同時に国際社会学会の第49研究分科会「精神保健社会学」も公認会議として参加し、日本精神保健社会学会が共催団体となり進行に当たる予定です。報告の申込みの締切りは今年1995年10月1日です。この会議に関心のある方は事務局にお問い合わせやご意見をお寄せ下さい。9月早々の理事会で本学会の方針を決定する予定です。

## 3. 会員異動

### 新入会員

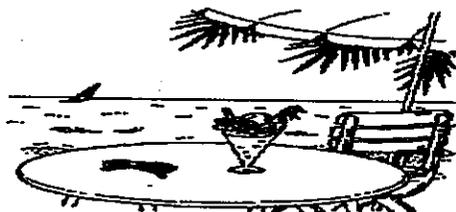


### ご逝去



## 4. 会費納入のお願い

4月から新会計年度になりました。会費の納入をお願いいたします。今年度分まで未納の方には郵便振替用紙を同封いたしますので、それでお振込み下さい。郵便振替口座番号は00140-6-40477です。  
なお、行き違いがあれば直ぐにお知らせ下さい。



# 日本保健医療社会学会ニュース

NO. 29

1996年1月1日

発行：日本保健医療社会学会

〒173 東京都板橋区

大谷口上町30-1

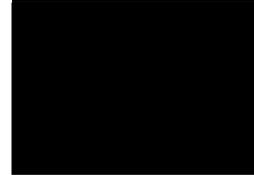
日本大学医学部

社会学研究室内

新年 明けまして

おめでとう

ございます



振替口座 00140-6-40477

編集責任者 姉崎 正平

## 1. 月例研究会のお知らせ

### 第144回月例研究会

日時：1996年1月16日（火）18：30～20：30

場所：東京大学医学部3号館3階 N307（保健医療社会学教室図書室）

〒113 東京都文京区本郷7-3-1 ☎03-5689-7256

講師：平野かよ子 厚生省健康政策局計画課指導室長

演題：「地域保健法制定の意義——行政の立場から」

講師：養方 嵩史 中野区環境衛生部保健計画主査

演題：「都市における地域保健——現場からの報告」

### 第145回月例研究会

日時：1996年2月13日（火）18：30～20：30

場所：東京大学医学部3号館3階 N307（保健医療社会学教室図書室）

講師：川越 博美 ライフアシスト 白十字診療所訪問看護ステーション所長

演題：「在宅におけるターミナルケア」

### 第146回月例研究会

日時：1996年3月19日（火）18：30～20：30

場所：東京大学医学部3号館3階 N307（保健医療社会学教室図書室）

講師：片平 冽彦 東京医科歯科大学難治疾患研究所情報医学研究部門

（臨床薬理）助教授

演題：「輸入濃縮血液製剤によるHIV感染者の1995年12月14日

—— 実態と償いのあり方」

## 2. 第3回国際保健医療行動学会会議共催の件

本件について本学会の準備委員会が去る11月26日（日）に学士会館別館で開催されました。決議の概要は以下の通りです。主学会である「保健医療行動学会」への演題申込みの状況等で修正があるかも知れませんが、国際社会学会の第15部会「保健医療社会学部会」を後援する当学会も独自の企画を立てることにする。そのため、①第1日目に基調講演として、William C. Cockerham アラバマ大教授による「保健医療社会学の世界的展望」を行う、②第2日目にシンポジウムとして「高齢社会下での保健医療福祉システム」を行い 来年度来日予定のUCLAのSteven Wallace 助教授をシンポジストとして招聘することにする、というものでした。当学会の準備委員は、姉崎正平、進藤雄三、園田恭一、早坂裕子、仲尾唯治、中川米造、中野秀一郎、宗像恒次、山崎喜比古、米林喜男、の諸会員ですが、先の企画を考慮して、杉田聡、杉澤秀博両会員へも準備委員への就任を要請することになりました。他にも関心のある方はご連絡下さい。

## 3. 会員異動

新入会員



## 4. 第22回日本保健医療社会学会大会・保健医療社会学会論集

これらの件について、「大会のご案内」、「演題申込票」「論集論文募集」、その他アンケート等、合計7枚の用紙が同封されておりますので、よく読まれ必要なものに対してはご応募、ご回答下さい。

謹賀新年

# 日本保健医療社会学会ニュース

NO. 30

1996. 3.22

発行：日本保健医療社会学会

〒173 東京都板橋区

大谷口上町30-1

日本大学医学部

社会学研究室内

## 第22回日本保健医療 社会学会大会を 成功させよう！

振替口座 00140-6-40477

編集責任者 姉崎正平

(総務理事)

### 1. 月例研究会のお知らせ

#### 第147回月例研究会

日時：1996年4月3日（木）15：00～17：00

場所：東京医科歯科大学難治疾患研究所 2階ゼミナール室

〒101 東京都千代田区神田駿河台2-3-10

（片平列彦）

JRお茶の水駅より徒歩5分、三楽病院の前、池坊学園隣

演題：「医療問題とマスコミ —サリドマイド事件の経験から」

講師：川中子 真 近畿大学教授 元産経新聞ワシントン支局長

共催：スモン・地域ケア研究会と日本保健医療社会学会との共催

### 2. 保健医療社会学文献目録と会員の研究ネットワーク作成のための調査への回答

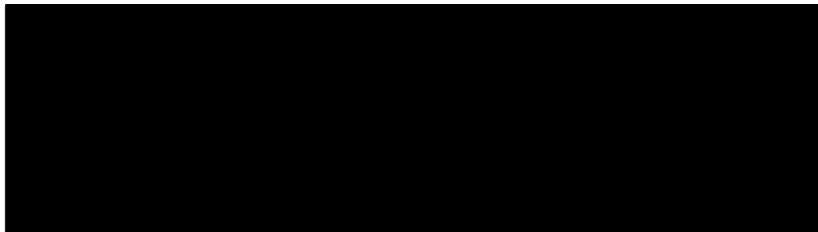
— 回収期限を3月29日（金）まで延長!! —

当初の締め切り2月16日（金）までにすでに多くの方々から回答を寄せて頂きましたが、順調な作業状況と出来る限り多数の方々からの回答を得たいとの考えから、回収期限を3月29日に延長してさらに集めることにしました。まだご回答頂いていない方はぜひお送り下さい。フロッピー・ディスクでのご送付、大歓迎です。

用紙は、前回お送りしましたが、このほうのお問い合わせ先と方法も上記演題申込みの場合と同じにして下さい。

### 3. 会員異動

新入会員



#### 4. 日本保健医療社会学会第22回大会の最終案内

— 演題申込みの締め切り迫る!! ポスターの活用を! —

大会担当理事・事務局企画の日程が下記のとおりすべて決まりました。手づくりのポスターですが同封しました。勤務先に掲示するなど、宣伝にご活用下さい。

一般演題・要望演題の申込み締め切りが迫っています。奮ってお申込み下さい。ファックスでの申込み可です。申込み用紙、抄録原稿作成要領については前回お送りしましたが、不明な場合は、大会事務局までご請求下さい。その際、ファックスでお答えするのが便利と思われるので、ファックス番号を教えてください。

- 会期： 1996年5月18日(土)・19日(日)
- 会場： 東京大学山上会館(〒113 東京都文京区本郷7-3-1)
- 第1日(5月18日)： 1:30・開会式/1:40・基調講演：園田恭一  
(日本保健医療社会学会長) / 2:00・シンポジウム「医療者・患者関係の転換と患者の主体化」 司会：北原龍二(横浜国立大学)、一戸真子(東京大学) 報告者：甲斐一郎(東京大学)、河口てる子(日赤看護大学)、宇都木伸(東海大学)、杉田聡(大分医科大学) / 4:40・特別講演「医療費の動向とこれからの医療政策—高齢化社会の医療ビジョン—」：廣井良典(社会保険大学校)、特別講演「海外の医療社会学」：進藤雄三(奈良女子大学) / 6:00・懇親会
- 第2日(5月19日)： 9:30・総会/10:05・特別講演「質的調査研究の方法—グラウンデッドセオリーを中心に」：山本則子(東京大学) / 10:50・一般演題・要望演題発表/1:20・一般演題・要望演題発表/3:00・看護研究部会主催ミニ・シンポ「介護と看護における役割葛藤は解決できるか?」、一般演題発表/4:30・閉会
- 大会参加費： 会員3,000円、非会員3,500円、学生2,000円
- 発表演題募集： 演題申込締切：3月29日(金) / 抄録原稿締切：4月19日(金) (共に当日消印有効) / 要望演題：「医療者・患者関係」「保健医療看護政策の分析」
- 大会担当理事及び大会事務局： 〒113 東京都文京区本郷7-3-1 東京大学医学部保健社会学教室 山崎喜比古 / [REDACTED]

**注意：裏面に社会学教員公募要項!!**

徳大総人第310号  
平成8年2月9日

各国公私立大学(学部)長 殿  
各 関 係 機 関 長

徳島大学総合科学部長  
吉 森 章 夫  
[公 印 省 略]

社会学教官の公募について(依頼)

時下益々御清栄のこととお慶び申し上げます。  
さて、このたび本学部では下記の要領で教官を公募することになりました。  
つきましては、貴機関関係諸方面への周知方について、よろしくお願い申し上げます。

記

- 1 所 属 人間社会学科・行動科学大講座
- 2 専 門 分 野 社会学
- 3 担当授業科目 全学共通教育の社会学, 学部の社会福祉研究, 社会調査実習, 現代国際社会ゼミ, 大学院の授業を担当する場合もある。
- 4 採用職種 講師又は助教授
- 5 採用人員 1名
- 6 応募資格 (1)大学院修士課程修了者又はこれと同等以上の研究業績を有する者  
(2)社会福祉の諸問題に関して国際的視野と幅広い関心をもって実証的研究に従事している者  
(3)年齢35歳以下の者(採用時)
- 7 提出書類 (1)教員選考申請書(写真貼付)  
(2)研究業績書(主要な研究業績5点までに○を付けて下さい。)  
(3)著書, 研究論文, その他の研究業績(別刷り又はそのコピーでも可)  
(4)その他選考委員会が必要と認めたもの  
※(1)及び(2)については、必ず所定の用紙(コピーも可)に記入すること。用紙は本学部庶務係へはがき又は電話で請求して下さい。(4)については後ほど依頼することがあります。
- 8 応募期限 平成8年4月30日(火)(必着)
- 9 採用予定日 平成8年10月1日
- 10 応募書類の提出先 〒770 徳島市南常三島町1丁目1番地  
徳島大学総合科学部長 吉 森 章 夫 あて  
郵送の場合は、必ず「書留」にし、封筒の表に「社会学教官応募」と朱書すること。
- 11 公募に関する問い合わせ先 徳島大学総合科学部庶務係 

# 日本保健医療社会学会ニュース

NO. 31

1996年5月1日

発行：日本保健医療社会学会

〒173 東京都板橋区

大谷口上町30-1

日本大学医学部

社会学研究室内

## 第22回日本保健医療 社会学会大会開催迫る！

## 大会日に会員名簿発行！

振替口座 00140-6-40477

編集責任者 姉崎正平

(総務理事)

### 1. 第22回日本保健医療社会学会大会プログラム決定

来る5月18日(土)・19日(日)の両日、東京大学山上会館(本郷キャンパス)で開催される本学会大会についてはすでに当「学会ニュース」において、プログラムの概要をお知らせし、ポスターもお送りしましたが、最終的なプログラムが決まりましたので、お送りします。多くの会員の皆様および関心のある方々の参加による盛会が期待されます。

### 2. スリランカの医療社会学者、客員研究員受入れ先を求む

スリランカの医療社会学者 DR Jaya Pinikahana(1954年生、現在ニュージーランドCanterbury大学社会学科客員研究員)が日本で客員研究員として受け入れ先を探しています。履歴書、業績、専門領域、連絡先など詳細が届いていますので、ご関心のある方は事務局(姉崎)までご連絡下さい。

### 3. APNETへのご参加を

APNET(The Asia Pacific Network for the International Forum for Social Sciences in Health, 保健医療社会学論集第8号「巻頭言」参照)への参加にご関心のある方は事務局(姉崎)までご連絡下さい。

### 4. 会員異動

#### 新入会員

才木 クレイブル 滋子 東海大学健康科学部

小田 式子 日本看護協会看護研修センター

丸山 由香 東京大学保健社会学修士課程

### 5. 日本健康科学学会第12回大会のお知らせ

上記大会が11月14日(木)・15日(金)、グランドビル市ヶ谷(東京都新宿市谷本村町4-1)で開催されます。テーマ「21世紀の健康科学の展望：保健、医療、福祉の連携」  
一般演題申込締切日：7月12日。大会事務局：〒181 東京都三鷹市新川6-20-2  
杏林大学医学部医療科学教室、

# 日本保健医療社会学会ニュース

NO. 34

1996年5月1日

発行：日本保健医療社会学会

〒173 東京都板橋区

大谷口上町30-1

日本大学医学部

社会学研究室内

## 第23回日本保健医療 社会学会大会開催迫る！

## 大会プログラム掲載！

振替口座 00140-6-40477

編集責任者 姉崎正平

(総務理事)

### 1. 第23回 日本保健医療社会学会大会プログラム

#### メインテーマ 「保健医療における情報開示と自己決定」

【第1日目】 5月17日（土）

《開会式》

13時～13時30分

4F講堂

学会長挨拶 園田 恭一  
大会長講演 渋谷 優子

東洋大学  
東京医科歯科大学)

《シンポジウム》

13時30分～16時40分

4F講堂

「保健医療における情報開示と自己決定」

司会者：

山崎喜比古  
堀畑まなみ

東京大学  
都立大学

シンポジスト：

中川 米造  
片平 例彦  
鈴木 利廣  
長浜 晴子

大阪大学  
東京医科歯科大学  
鈴木利廣法律事務所  
元厚生省健康政策局看護課

《特別講演1》

16時40分～17時25分

4F講堂

「保健医療における「参画」を考える」

演者：  
司会者：

林 義樹  
石井 享子

武蔵大学  
国立公衆衛生院

《特別講演2》

17時25分～18時10分

4F講堂

「保健医療福祉における実証研究の進め方」

演者：  
司会者：

杉澤 秀博  
朝倉 隆司

東京都老人総合研究所  
東京学芸大学

《懇親会》

18時20分～20時

会場：あるめいだ

【第2日目】5月18日(日)

《総会》

9時30分～10時

4F講堂

《一般演題・要望演題発表》10時～11時15分

要望演題A「情報開示・自己決定・エンパワーメント」

要望演題B「健康概念・測定」

《要望演題A》

1 群 「情報開示と自己決定」

4F講堂

司会者：

北原 龍二

横浜国立大学

1. てんかんを匿すことと明かすことに関する質的研究

○伊藤美樹子

東京大学

神田 正人

同上

鈴木 一郎

同上

小国 弘量

東京女子医科大学

山崎喜比古

東京大学

2. 新薬開発のための臨床治療と患者の参加

奥田 稔

日本医科大学

3. C型肝炎患者におけるインターフェロン治療決定に関する要因

関 由起子

東京大学

4. Deep-Value-Pairingモデルと患者の自己決定

○小松楠緒子

東京工業大学

山崎喜比古

東京大学

5. 行動変容理論に基づく自己決定を含めるセルフ・アウェアネス・トレーニングの日本への適応の検討ーエイズ臨床拠点病院看護職研修カリキュラムを例として

○馬場 萌

Life Foundation(USA)

国際教育サービス

崎間 和美

Waikiki Health Center(USA)

6. 消化器がん患者における手術を受ける意思決定と情報獲得との関連

○角田 直枝

東京医科歯科大学

渋谷 優子

同上

〔一般演題〕

2群 「自己決定と役割」

3F第1ゼミナール室

司会者：

遠藤恵美子 北里大学

1. 透析患者の自己決定理由と行動

○岡 美智代 筑波大学  
安酸 史子 岡山県立大学

2. 慢性疾患患者における手術の自己決定とソーシャルサポート—子宮筋腫単純摘出術を受ける患者

○宮林 幸江 済生会福島総合病院  
木村 和子 同上

3. 中高年女性の更年期に対する態度における医学的文脈と性別意識

○中山 和弘 愛知県立看護大学  
信田 徹 同上

4. 末期医療に対するがん患者遺族の評価—体験の意味付けとその形成過程

○佐伯 みか 東京大学  
伊藤順一郎 国立精神神経センター  
福井小紀子 東京大学  
町田いづみ 市川神経科クリニック  
山本 則子 東京大学  
志真 泰夫 国立がんセンター東病院  
小野 充一 戸田中央総合病院

5. 訪問看護婦が認識する在宅療養者の自己決定の様相

佐藤富美子 東京慈恵会医科大学

6. 「生と死への関わり」に対する医学生と看護学生の意識調査

○西脇 智子 聖路加看護大学  
日野原重明 同上

《特別講演3》

11時15分～12時

4F講堂

「看護政策の現状と展望」

演者：  
司会者：

田村やよひ 厚生省看護研究研修センター  
高木 水子 香川医科大学

《特別講演4》

13時～13時45分

4F講堂

「日本医療社会学への提言」

演者：  
司会者：

黒田浩一郎 神戸女学院大学  
野口 祐二 東京学芸大学

〔一般演題〕

3群 「保健医療の政策とシステム」 4F講堂

司会者： 山手 茂 東洋大学

1. 准看護婦教育の問題と限界—准看護婦問題調査（'96）から（その1）—

○細田満和子 東京大学  
三井 きよ 同上  
似田貝香門 同上

2. 看護職における「人手不足」論の検討—准看護婦問題調査（'96）から（その2）—

○三井 きよ 東京大学  
細田満和子 同上  
似田貝香門 同上

3. 看護学生の社会的スキルに関する検討

千葉 京子 日本赤十字武蔵野女子短期大学

4. 看護サービスの対価に関する住民の意識調査

大津 廣子 静岡県立大学

5. 地域住民にみる高齢者保健福祉サービスの利用と提供

相川 良彦 農業総合研究所

6. 住民が主体的に参加できるシステムに関する研究  
—保健婦による意志確認方法の実態から

○佐藤 和美 国立公衆衛生院  
石井 享子 同上

7. 1991年英国 NHS改革における政府規制とその背景—公平性からの分析を中心に

○小出昭太郎 東京大学  
田村 誠 同上

〔要望演題B〕

1群 「健康概念・測定と住民意識」 3F第1セミナール室

司会者： 川田智恵子 岡山大学

1. 健康づくり活動における住民主体について—保健婦調査をもとに

佐藤 林正 東京都立医療技術短期大学

2. 高齢者虐待に関する一般市民の認識—家族介護に伴う虐待に焦点を当てて

○海老原光子 順天堂医療短期大学  
福島 道子 国際医療福祉大学  
島村 忠義 日本赤十字看護大学  
馬場 茂樹 秋草学園短期大学  
武 みつ子 墨田区たちばなホーム

3. 笑いの睡眠への効果

○新田 章子 東京医科歯科大学  
渋谷 優子 同上  
井上昌次郎 同上

4. 児童との交流を通して変化した老人の意識に関する研究—小学校におけるGTA活動を通して  
安川 緑 旭川医科大学
5. 一人暮らし高齢者のWell-Beingに関する研究—慢性疾患をもった高齢者の健康度を中心に  
長江 弘子 日本赤十字看護大学
6. A. アントノフスキーの健康生成理論とその可能性  
○岩井 淳 東京工業大学  
山崎喜比古 東京大学
7. 経済学から見た健康とその測定方法  
岡田 進一 大阪市立大学

《会員自主企画》 15時30分～18時

看護研究部会主催ミニ・シンポジウム

4F 講堂

『看護実践学における方法論の可能性を求めて』

シンポジスト：「死のケア理論と看護」をどう読むか 儘田 徹 愛知県立看護大学

なぜ看護は現象学を必要とするか—看護理論家の立場から 勝又 正直 名古屋市立大学

看護実践における教育方法論の活用 山本 捷子 日本赤十字秋田短期大学

司会者： 福島 道子 国際医療福祉大学  
平野かよ子 厚生省健康政策局計画課

討論集会

3F 第1セミナール室

『特別講演「日本医療社会学への提言」を受けて』

討論者： 黒田浩一郎 神戸女学院大学

山崎喜比古 東京大学

早坂 裕子 東北福祉大学

林 千冬 群馬大学

進藤 雄三 奈良女子大学

司会者： 姉崎 正平 日本大学

学会プログラム以上

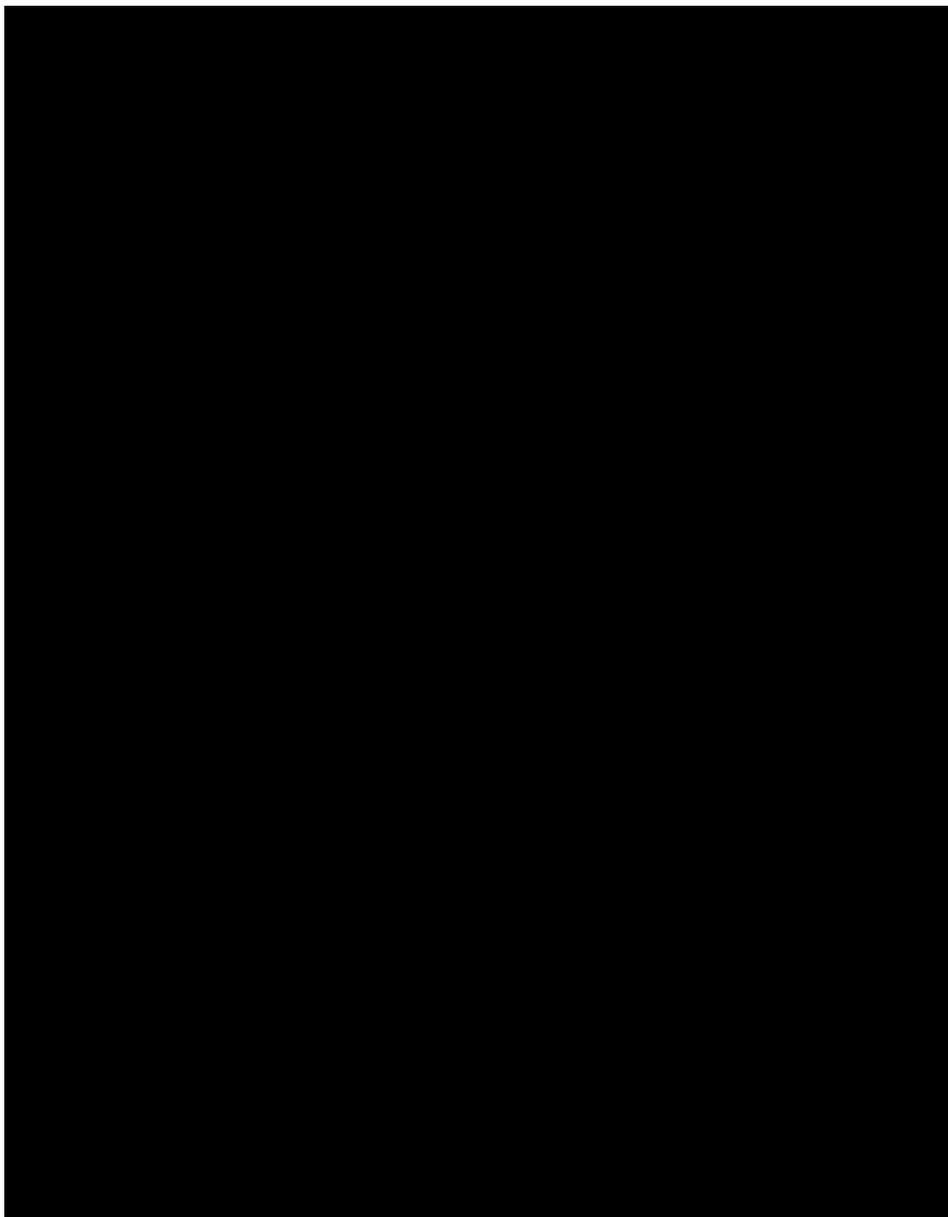
## 2. 役員選挙の結果について

理事および監事の選挙が行われました。3月31日（消印有効）に締め切れ、4月3日に東京大学医学部保健社会学教室において大島巖・福島道子両選挙管理委員と姉崎正平総務担当理事の立会いの下で開票が行われました。有権者数182名（無資格者78名）、投票総数62票、投票率34%でした。理事には園田恭一、川田智恵子、大島巖、米林喜男、島村忠義会員が投票で選ばれ、簇野脩一・小玉香津子両会員が理事会により推挙されました。監事には林千冬・芦沢正見両会員が投票で選ばれました。これら全員が理事および監事を受諾されました。理事の役割分担は以下の通りです。簇野脩一（会長・国際渉外）、園田恭一（例会）、川田智恵子（編集）、大島巖（財務）、島村忠義・小玉香津子（総務・事務局）、米林喜男（国内渉外）。

## 3. 名誉会員の推挙について

昨年の総会において名誉会員制度が「学会規約」に規定され、理事会で「名誉会員制度規則」案が作成され、山本幹夫会員と橋本正巳元会員を推挙することになり、総会で「規則」とともにご審議いただくこととなります。

#### 4. 新入会員



大会と会場についてのお知らせとご案内を  
同封しますので、ご参照下さい

大会場でお会いするのを楽しみに！

## 第23回 日本保健医療社会学会大会にご出席される皆様へのお知らせ

大会事務局 〒113 文京区湯島1-5-45  
東京医科歯科大学医学部保健衛生学科  
看護学専攻 渋谷研究室

### 1. 大会参加受付について

- 1) 参加者の受付は東京医科歯科大学5号館4階ロビーです。受付時間は5月17日(土) 12時00分より18時00分まで、5月18日(日) 8時50分より16時00分までです。
- 2) 大会参加費は、会員3,000円、非会員3,500円、学生2,000円です。
- 3) 参加受付時にプログラムと抄録集をお渡しいたします。
- 4) プログラムには、参加費の領収書が挿入してあります。
- 5) ネームカードは、プログラムに挿入してありますので、お名前と所属をご記入の上会期中はおつけください。ネームカードの無い方の入場は固くお断りします。

### 2. 懇親会に参加される皆様へ

- 1) 懇親会は5月17日(土) 午後6時20分より、学内レストラン「あるめいだ」(総務科棟 4F11)において行います。
- 2) 懇親会への参加申込は大会参加費受付時に行います。
- 3) 参加費は会員・非会員ともに4,000円、学生は3,000円です。
- 4) レストラン「あるめいだ」へのご案内は受付係で行います。

### 3. 一般演題で発表される皆様へ

- 1) 発表者は参加受付終了後、4階ロビー演者受付で確認を済ませてください。
- 2) 発表会場は4階講堂と3階第1ゼミナール室です。
- 3) スライドを使用される方は、各発表群の1時間前までに受付スライド係にスライドを持参し、スライドケースにセットし試写した後、スライド預かり証と引き換えに係に預けてください。発表終了後は、受付でスライドを受け取ってください。
- 4) 演者は最前列の次演者席にお座りください。
- 5) 発表時間は10分、質疑応答、討論の時間は3分です。口演終了の1分前に予鈴を鳴らし、終了時にはベルでお知らせします。時間厳守し、進行にご協力ください。

### 4. 学会入会について

- 1) 4階ロビー受付において日本保健医療社会学会入会申込受付を行います。

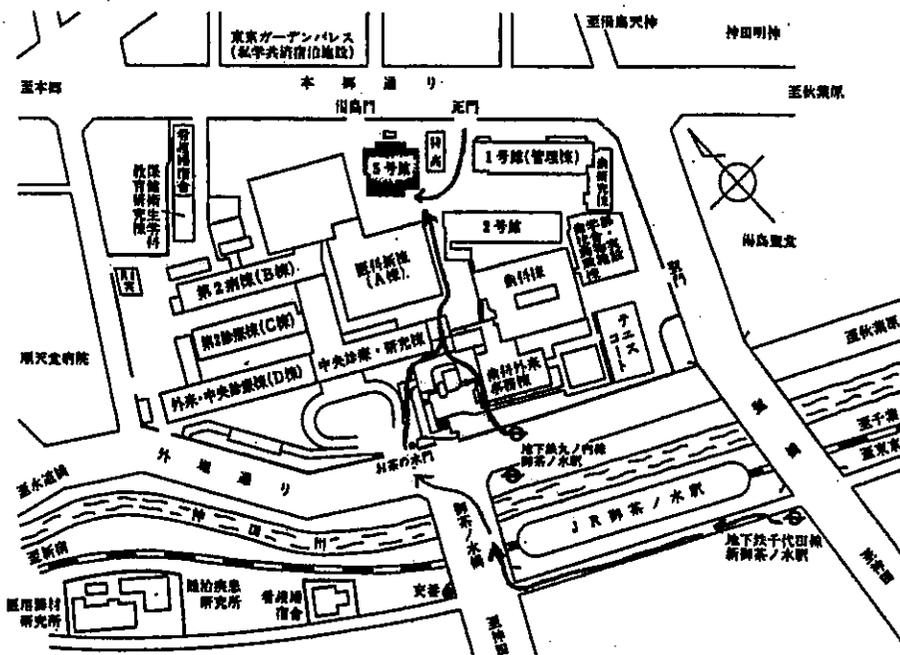
### 5. その他

- 1) 会場内の呼出しは原則的には行いませんが、必要に応じて受付に指示案内いたします。
- 2) 5号館会場内は全館禁煙になっています。喫煙は所定の場所をお願いいたします。
- 3) 5月18日(日)の昼食は各自でお取りください。御茶の水駅周辺には多数のレストランがあります。レストランのご案内地図は受付に用意いたします。

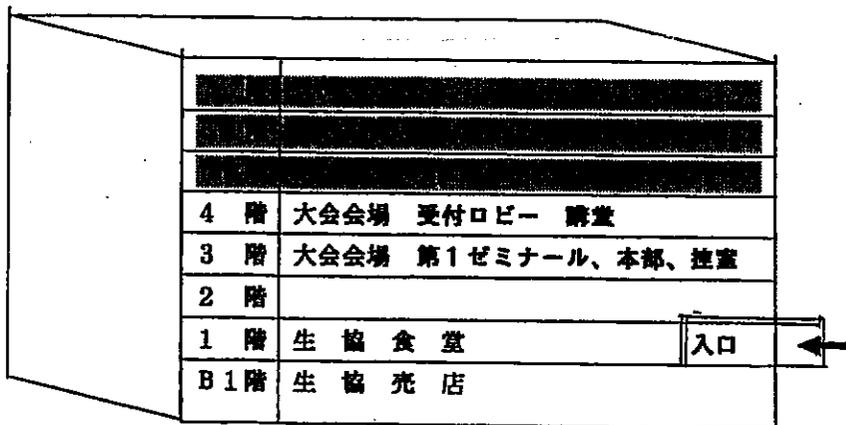
## 第23回 日本保健医療社会学会大会 会場ご案内

### 東京医科歯科大学への交通

- J R 「御茶の水駅」(御茶の水橋より徒歩3分)
- 地下鉄 丸の内線「御茶の水駅」(徒歩2分)
- 千代田線「新御茶の水駅」(徒歩5分)



### 東京医科歯科大学5号館 (1階と地階は生協です)



# 日本保健医療社会学会ニュース

NO. 35

1997年7月18日

発行：日本保健医療社会学会

〒150 東京都渋谷区広尾4-1-3

日本赤十字看護大学看護学部

社会学研究室

看護学研究室

振替口座：00140-6-40477

編集責任者：島村忠義，小玉香津子

## 1. 第148回 月例研究会のお知らせ

日時：1997年7月28日（月）18:00～20:30

場所：学士会館別館3号室

〒113 東京都文京区本郷7-3-1

問い合わせ先：東洋大学社会学研究室

交通手段：丸の内線本郷三丁目下車5分（地図別紙参照）

講師：瀧澤 利行 茨城大学教育学部助教授（公衆衛生学）

演題：「養生思想の展開と健康観の形成」

## 2. 第23回総会において次の理事が承認されました。新理事の役割分担は以下のとおりです。

会長：筑野脩一理事

月例会担当：園田恭一理事

論集担当：川田智恵子理事

渉外担当：米林喜男理事

財務担当：大島巖理事

総務担当：島村忠義理事と小玉香津子理事（姉崎前総務担当理事から目下引継中です。会員の皆様には当分の間、ご迷惑をおかけするかとありますが、よろしく願い申し上げます）

## 3. 第23回日本保健医療社会学会大会について

第23回日本保健医療社会学会大会が1997年5月17日（土）～18日（日）の2日間、東京医科歯科大学で開催された。渋谷優子大会長によれば、参加会員は5月17日（土）が121名、5月18日（日）が34名の合計155名であった。大会のプログラムは多彩で参加者からは好評であった。又、研究発表は、26件の演題申し込みがあり、盛況のうちに終了した。

4. 名誉会員の推挙について

第23回日本保健医療社会学会大会総会において、名誉会員として橋本正巳氏、山本幹夫氏が推挙されました。

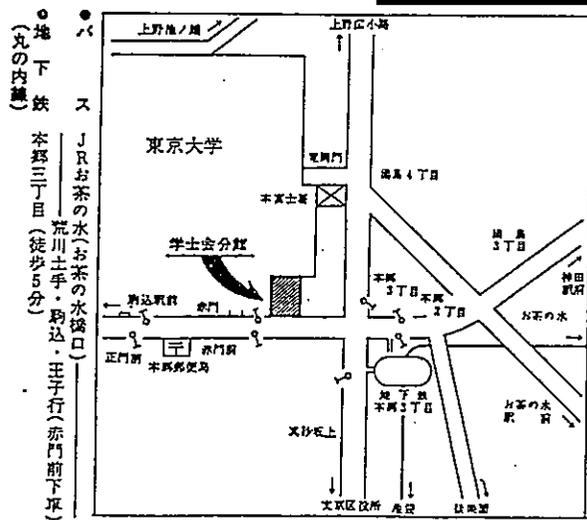
5. 会員の異動

新入会員



学士会分館案内図

東京都文京区本郷7-3-1



# 日本保健医療社会学会ニュース

NO. 36

1997年11月18日

発行：日本保健医療社会学会

〒150 東京都渋谷区広尾4-1-3

日本赤十字看護大学看護学部

社会学研究室

看護学研究室

振替口座：00140-6-40477

編集責任者：島村忠義，小玉香津子

---

## 1. 第150回 月例研究会のお知らせ

日時：1997年12月5日（金）18.30～20.00

場所：東洋大学2号館（図書館研究棟）15階社会学研究所

問い合わせ先：東洋大学社会学研究室

月例研究会担当理事 園田恭一

交通手段：地下鉄都営三田線白山下車（南北線本駒込駅下車）8分

講師：古屋 龍太先生 国立精神・神経センター-武蔵病院（日本PSW協会東京都支部長，  
地域精神医学会事務局長）

最近，日本PSW協会「これからの精神保健」へるす出版，  
1997. ¥2,300を出された共著者の一人です。

演題：「これからの精神保健」

## 2. 第24回日本保健医療社会学会大会日のお知らせ

第24回日本保健医療社会学会大会が東京の学芸大学において1998年5月30日（土）  
～31日（日）の2日間行われることが決定されました。研究発表等の募集を致します。  
大会プログラムの大枠については11月の理事会で検討する予定となっております。

## 3. 本会員の中川米造氏の逝去について

本学会の会員であり，現代医療の技術偏重を批判し，倫理問題に取り組んできた仏  
教大学教授中川米造氏（71歳）が1997年9月30日腎がんの肝転移のためなくなりました。  
謹んでご冥福をお祈り申し上げます。

中川先生の主な活動歴：1969年森永と素乳の中毒の「中毒症追跡調査会を組織」し，  
支援活動を続けた。1968年に札幌医大で実施されたわが国初の心臓移植を告発する会  
に参加し，脳死移植問題に臨んで，医師が患者に十分説明し，同意を得る「インフォームド  
コンセント」の重要性を説いた。著書には「医療の原点」等多数。

4. 看護研究部会役員の選挙結果について

1997年10月看護研究部会において役員選挙が行われ、以下の役員が決まりました。

部会長 佐藤米子（愛知県立看護大学）

副会長 島村忠義（日本赤十字看護大学）

事務局 木村和弘（日本赤十字社）

5. APNET(The Asia Pacific Network for the International Forum for Social Science in Health)について

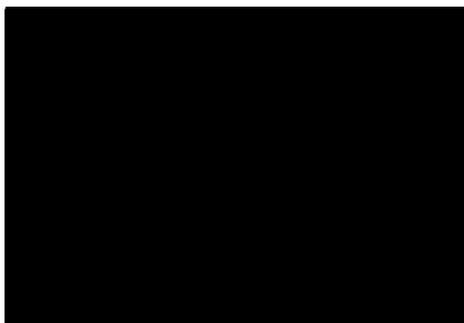
APNETについては姉崎正平前総務担当理事が窓口となっておりますので関心のある方は同理事にお問い合わせ下さい。連絡先 日本大学医学部姉崎正平社会学教授研究室

6. 会員の異動

退会会員



新入会員



# 日本保健医療社会学会ニュース

NO.41  
1999年5月6日

発行：日本保健医療社会学会  
〒150-0012 東京都渋谷区広尾4-1-3  
日本赤十字看護大学看護学部社会学研究室  
振替口座：00140-6-40477  
編集責任者：島村忠義，小玉香津子

## 1. 理事選挙のお知らせ

1999年3月初旬に行われました理事選挙の結果を報告致します。有権者268（非有権者53名）に郵送しました。投票数は66名，投票率は24.6%でした。開票の結果，以下5名の方が当選致しました（アルファ順に記載）。以下，敬称略。

朝倉 隆司（東京学芸大学）  
渋谷 優子（東京医科歯科大学）  
山手 茂（東洋大学）  
山崎喜比古（東京大学）  
米林 喜男（順天堂大学）

選挙管理委員

北原 龍二（桜花学園大学）  
佐藤 栄子（愛知県立看護大学）

当選した理事5名から構成された理事会が1999年4月22日東洋大学の社会学研究所において開催され，日本保健医療社会学会規約第3章役員の第10条の2の規定「専攻分野を考慮しつつ，直接選挙によって選出された理事が2名指名する」により以下の理事が選出されました。

星 旦二（東京都立大学）  
野口 裕二（東京学芸大学）

## 2. 第25回日本保健医療社会学会大会について

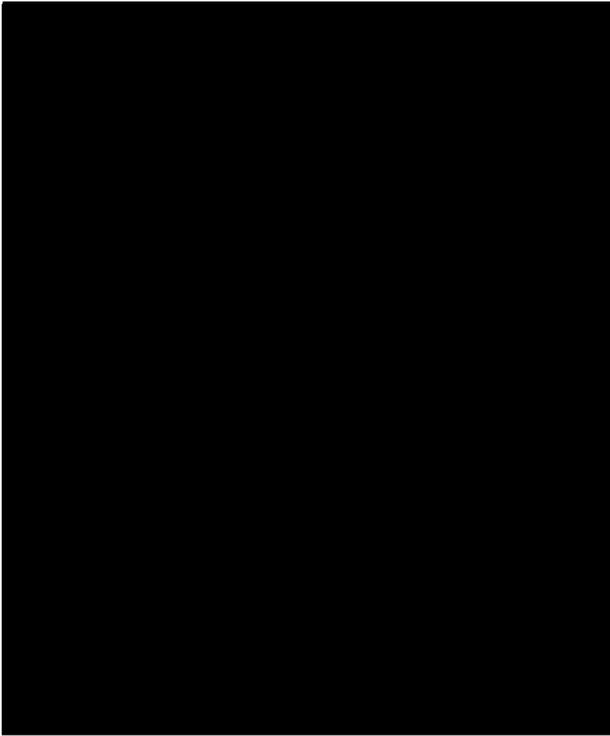
第25回日本保健医療社会学会大会は1999年5月22（土）～ 23日（日）の2日間東京都老人総合研究所において開催されます。大会長の柴田博氏，大会事務局長の長谷川万希子氏のご努力により大会プログラムの構成が決まりましたのでお送り致します（別紙参照）。本大会始まって以来，最多の出題があり，一般演題（39名）の発表者数となりました。多数の会員の参加を期待しています。

## 3. 第26回日本保健医療社会学会大会校のお知らせ

第26回日本保健医療社会学会大会が奈良女子大学で開催されることになりました。1989年に日本保健医療社会学会となって以来，東京以外の地域で初めて開催される大会となります。詳しい日程等は大会当日報告します。

#### 4. 会員の異動

##### 新入会員



##### 退会



#### 5. 会費納入の催促について

平成10年度及び前年度の会費未納の会員の方は振込取り扱票を同封致しましたので会費の納入をお願い申し上げます。なお、保健医療社会学論集第10号は大会当日、受付でお渡しする予定です。大会に不参加の会員には後日、郵送致します。また、平成10年度会員となり、保健医療社会学論集第9号がお手元に届いていない方はお送りしますので、ご請求下さい（当日、大会の受付においても可）。

#### 6. 住所不明の会員について情報提供のお願い

第10回の理事会において住所不明の会員の取扱を以下のように決定させて頂きました。住所不明の会員は学会ニュース等で会員に2～3回情報提供をお願いした後、不明の場合、退会扱いとさせて頂きますのでご承知おき下さい。

\*\*\*\*\*

# 日本保健医療社会学会 ニューズレター

1999・8・30

日本保健医療社会学会事務局

184-8501 東京都小金井市貫井北町4-1-1

東京学芸大学教育学部保健学研究室内

(編集発行：朝倉隆司・野口裕二)

\*\*\*\*\*

## ●第25回大会報告

第25回日本保健医療社会学会大会が、東京都老人総合研究所を会場に5月22日と23日に行われました。参加者数は259名で、昨年の205名を上回る大盛会となりました。大会会長の柴田博先生、事務局長の長谷川万希子先生をはじめ、老研のスタッフの皆様のご多大なるご尽力に深く感謝申し上げます。

### 大会を終えて

東京都老人総合研究所副所長 柴田 博

去る5月22日(土)、23日(日)の両日、旧養育院講堂で、第25回大会を主催させていただいた。スタッフの協力により無事終了することが出来、ホッと安堵している。これまで、本学会にあまり貢献できないでいたが、これを契機に情熱的に協力していくつもりでいる。

第1日目は、大阪市立大学の白澤教授の基調講演とそれを受けてのシンポジウム(山手茂、長谷川万希子司会)において、介護保険の導入によって起こる諸問題の検討を行った。結論を出すべき性格の討論ではなかったが、いくつもの鋭い問題の指摘があった。

2日目は大会長の学際的縦断研究の意義についての講演があった。社会学分野では横断的研究が中心を占めているので、何らかの啓発的意義があった。さらに、シンポジウムは、わが国における国際的比較研究を行っている代表的な研究者を招き、研究、政策面の比較文化的な検討を行った(姉崎正平、杉澤秀博司会)。この種の研究の方法論上の問題に関し、多くの示唆を与えた。また、高橋亮氏の教育講演は、欧米のジェロントロジー教育について語り、シンポジウムとの有機的な関連が得られた。

この大会を主催して感じたことは、この学会は日本人の学会としてはめずらしく、学際的な方向を追求できる可能性を持っているということである。今日、社会は、国際性、職際性、そして学際性をキーワードとして求めている。特に、学問における蛸壺的セクト主義を止揚する必要性は各界から指摘されている。しかし、学際的連携に見えたものが実は個別科学の寄せ集めに過ぎないといった場合が多い。

実は、個別科学の成果を寄せ集めれば学際的あるいは総合的な科学になるというのは、デカルトの要素還元主義の裏返しに過ぎない。全体を捉えるにはそれにふさわしい方法が必要であり、そのためには、自分の立脚している discipline を壊しにかかる必要がある。

私は老年学の専門家であるが、同時に老年医学にも従事している。日本では、老年医学が先行し、学際的老年学はずっと遅れてしまった。しかし、個別化された老年学は限界をむかえ、独立講座から下ろしてしまう医学部も表われ始めた。

国際性、職際性、学際性の3つを意識して、今回の学会のプログラムを組んでみた。そして、この学会は、会員が若くてフレキシブルなこともあり、十分、今日的な要請を担っていく可能性をもっていると実感できた。大会長を務めた最大の酬いはその実感であった。

大会事務局から

東京都老人総合研究所研究員 長谷川万希子

第25回大会は本年5月22、23日に行われました。今回の大会では、事務局として大きな4つの目標を設定して準備をさせていただきました。その目標とは、①今日的话题(課題)についての討論と情報交換の場を企画する、②多くの会員の方に積極的に参加していただく、③学会の将来を見据えて若手研究者及び学生を動員する、④効率的運営を目指す、ということです。

第一の、シンポジウム・講演に関しては、第1日目に介護保険制度、第2日目に保健・医療社会学の理論と方法論について今日的话题を取り上げ、学会員以外の先生方にも多くお集まりいただき、開かれた討論を目指しました。

第二の、多くの会員の積極的参加については、一般演題39題、2日間で8セッションという形で、例年をはるかに上回る報告者数の実現をみることができました。演者および共同演者、講演・シンポジウム等の司会者、事務局スタッフを含めると、約100名の学会員が積極的な参加をしたこととなります。これは、大会開催時の学会員数の3割近くを占めています。学会の規模が大きくなる一方で名前だけの会員が増えていくようでは、本質的に学会の活性度が高まっているとは言えません。そう考えると、今回の大会開催は会員全体の参加と協同の成果と言っても過言ではありません。

第三の、若手研究者及び学生の動員に関しては、一般演題応募と同時に入会手続きをとっていただいた若手の新入会員が多くみられました。また、259名の大会参加者の3割(78名)が学生であったことから、学会の将来性を確認できる大会になったと自負しております。なお、大会2日間の参加者は会員115名、非会員66名、学生78名でした。懇親会も54名の方に参加していただき、盛大に終えることが出来ました。非会員の参加者数の多さをも、本学会の発展性の表われと考えることができます。

第四の、効率的運営については、大会ホームページを設けて学会内外への情報提供を充実させ、電子メールの利用による通信費の抑制を試みました。大会ホームページを通して、マスコミ、保健・医療・福祉分野の方々、一般者からの問い合わせを毎日のようにいただきました。電子メールで抄録原稿等のやりとりを行うことで、俊足かつ確実に安価な通信を実現することが可能になりました。今回の大会事務局の試みは、21世紀の学会運営に十分に活かすことができるという確信を得ることが出来ました。

最後になりましたが、このように成功を取めることが出来ましたのも、理事の先生方、各会員の皆様の惜しみないご助言、ご協力のおかげです。改めて会員の皆様にお礼申し上げます。また、大会準備期間中および当日の運営で、至らぬ点多々見られたかと存じま

すが、この場を借りてお詫びを申し上げます。

次期第26回の大会は、はじめて関東から離れて、奈良女子大の進藤先生が大会長と事務局長を兼任されます。第25回事務局からバトンと共にエールを送りたいと思います。

### ●新役員紹介

本年3月に行われた学会役員選挙の結果、下記の新役員が選出され、5月の総会で承認されました。

会長： 山手 茂 (東洋大学)

理事：

総務担当 朝倉隆司 (東京学芸大学)

広報担当 野口裕二 (東京学芸大学)

論集担当 山崎喜比古 (東京大学)

研究担当 米林喜男 (順天堂大学)

渉外担当 星 且二 (東京都立大学)

財務担当 渋谷優子 (東京医科歯科大学)

監査： 川田智恵子 (岡山大学)

林 千冬 (群馬大学)

会長に就任して

山手 茂 (東洋大学)

5月22、23日に開催された今年度の本学会大会総会において役員改選が承認され、会長に就任しましたので、このニューズレターの紙面をいただき、会員の皆様に御挨拶を申し上げます。

本学会の前身である保健医療社会学研究会が結成されてから、四半世紀が経過しました。この間、学会参加者が徐々に増加し、学会活動が着実に前進し、この分野の研究成果が豊富になってきました。会員の皆様とともに、この経過を再検討しつつ、今後の研究課題を検討し、それに取り組む学会活動を推進したいと存じます。

周知のように、21世紀の超少子高齢社会に備えて、保健・医療・福祉の改革が進められており、本学会の研究テーマである「保健・医療と社会の関係」の学際的、総合的研究の重要性は、社会学のみならず、保健学、医学、社会福祉学などあらゆる分野において共通に認識されています。本学会が結成当時から意図した隣接分野の研究者と共同する学際的、総合的な研究活動、学会活動を一層積極的に推進する必要があると思われます。

その意味で、本学会も参加している日本学術会議社会福祉・社会保障研究連絡委員会の活動にも、いままで以上に関心を持ち、参加して頂きたいと思います。

21世紀に向かって、学会メンバーにも、世代交代が課題になっています。幸い、今期役員にはこれからの世代をリードする若い役員の方々が選ばれております。若い役員の方々に新しい発想でリーダーシップを発揮して頂き、新進、中堅の会員の方々に積極的に研

究成果を発表して頂きたいと念願しています。

個人的なことです。最近日本図書センターから出版された『日本原爆論大系』（全7巻）の第2巻に、小生が20歳代後半に書いた原爆被爆者調査報告が収められており、半世紀近くの自分史、研究史のなかで、青年期の研究の位置づけを再評価しています。若い時代に先輩から受けたことの何分の一かでも、後輩の方々のためにできれば、と願っています。

舌足らずですが、会員の皆様、役員の皆様の積極的な御参画によって、本学会活動が飛躍的に発展するよう願って、会長就任の挨拶を終わります。

### ●「保健医療社会学論集」原稿募集

学会誌次号掲載をめざされる方は、今年12月20日までにご投稿下さい。

日本保健医療社会学会の機関誌『保健医療社会学論集』は、質量ともに充実してきたと思われま。次号 No. 11 の発行は、2000年5月です。『論集』への投稿は、通年で受け付けております。査読システムがあり、査読と修正に要する期間を考慮に入れて、これまでは、遅くとも、発行年の2月末までにご投稿下さい、としてきましたが、これでは間に合わない論文が数多く見られるようになりました。それは、投稿論文に問題があるのではなく、もともと短か過ぎたのです。

査読は、大変丁寧で、教育的査読に心がけているのが本誌の特徴ですが、そのため、査読者から投稿者に多くの点で注文が付き、投稿者とのやりとりで時間がかかります。したがって、来年度5月発行予定の雑誌に確実に掲載していくためには、今年の12月の20日までにご投稿頂く必要があると申し上げるべきでしょう。

もちろん、この後に投稿された論文も受けつけますし、通常の査読システムにかけられ査読者と投稿者のやりとりが短期間で済めば、掲載されることとなります。しかし、この場合、短期間で済めば、という不確実な条件付きでの投稿になるわけですから、ご注意ください。

原稿送付先：〒113-0033 東京都文京区本郷 7-3-1

東京大学大学院医学系研究科健康社会学研究室内

保健医療社会学論集担当事務局

(山崎喜比古)

### ●「研究情報」原稿募集

従来、「会員ネットワーク」という名称で会員の研究業績を集約してきましたが、本年から「研究情報」と改め、ニューズレターに掲載したいと思います。

1999年1月以降に発表された論文、著書等で、保健医療社会学に関係する研究業績をお寄せください。なお、学会報告は省略させていただきます。

編集事務の省力化のため、Eメールによる投稿を原則とします。（やむをえない場合は郵便による投稿も受け付けます）。アドレスは、XXXXXXXXXXです。

投稿は随時受け付けますが、ニューズレターの発行月（8月、12月、4月の予定）の前月末を一応の目安としてください。書式は「論集」執筆要項に準じます。

●研究会案内

4学会共催「地域づくりと高齢者福祉」研究セミナーのお知らせ

趣旨：介護保険の導入を半年後にひかえて、それがどんな問題を持ち、また地域社会へ如何なるインパクトをもたらすかについて考えるセミナーを開催いたします。報告者はいま最前線で地域の高齢者福祉に関わる方々です。どなたでも自由に参加できます。ふるってご来場くださるようお願いいたします。

①開催日 : 1999年9月18日(土) 13時30分～16時30分

②共催学会 : 日本村落研究学会、日本地域福祉学会、日本農村生活学会、日本保健医療社会学会

③協賛団体 : 日本農業新聞

④共通テーマ : 地域づくりと高齢者福祉—介護保険の導入をひかえて—

⑤座長 : 利谷 信義(東京経済大学)

⑥報告者と報告テーマ :

緒方 大造(日本農業新聞 報道部編集委員)

「介護保険と地域づくり」

森 貞述(愛知県高浜市長、福祉自治体ユニット代表幹事)

「介護保険と自治体の取り組み」

藤江志津子(JA宇都宮 生活福祉課長)

「JA宇都宮における高齢者福祉問題の取り組み」

和田 敏明(全国社会福祉協議会 地域福祉部長)

「介護保険と地域福祉の推進」

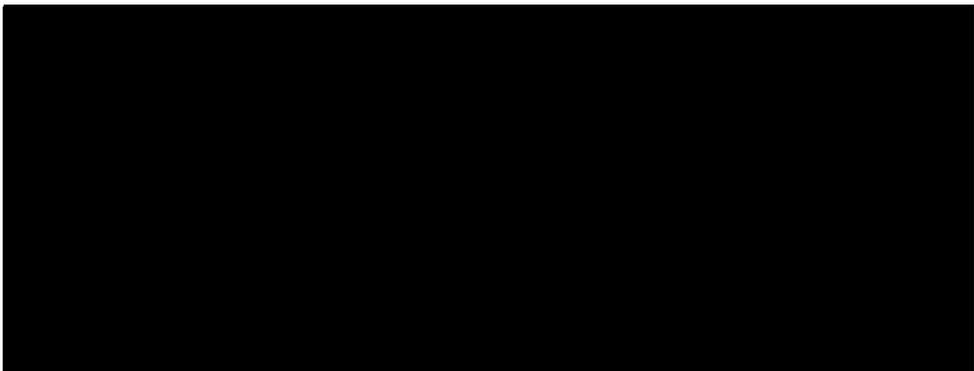
⑦参加費 : 無料(事前の参加申し込みも不要)

⑧会場 : 東洋大学白山校舎新1号館1202号教室

(最寄り駅: 都営三田線白山下車、又は営団南北線本駒込下車、どちら  
も徒歩5分 都営バスだとJR巣鴨駅南口から東洋大学前下車)

⑨問い合わせ先: 農業研究センター・加藤克明(TEL: XXXXXXXXXX)

●新入会員の紹介



会員名簿の整理を行っております。所属や住所を変更された会員は、e-mailまたはfaxで事務局まで随時お知らせ下さい。

●会費納入のお願い

今年度およびそれ以前の会費をまだ納入されていない会員は、納入下さい。

振込先：郵便振替 口座番号 00140-6-40477

加入者名 日本保健医療社会学会

年会費 4,000円

●ホームページの開設

本学会のホームページを試験的に運用しております。これから徐々に内容を充実させていく予定です。ホームページアドレスは次の通りです。

<http://www.u-gakugei.ac.jp/~asakura/JSHMS.html/>

ぜひ一度、アクセスしてご覧下さい。NACSISのAcademic Society HomeVillageからも入ることができます。ご意見、ご感想等、e-mail経由でお待ちしております。将来的には、会員のホームページや研究活動のホームページとのリンクも実現していきたいと思っております。

●編集後記

新事務局になってはじめてのニュースレターです。会員数が急増し大会報告も多彩になってきた本学会の勢いを伝えるために、できるだけこまめに会員の皆様に情報を提供したいと思っております。その手始めが「研究情報」欄の新設です。従来の「会員ネットワーク」は年に1回でしたが、ニュースレターを利用することによって、数か月単位で最新の研究情報を知ることができます。皆様の積極的なご利用をお待ちしています。(の)

\*\*\*\*\*

# 日本保健医療社会学会

No. 44

2000.7.31

## ニューズレター

日本保健医療社会学会事務局

東京学芸大学教育学部保健学研究室内

184-8501 東京都小金井市貫井北町 4-1-1

発行：朝倉隆司 編集：野口裕二

\*\*\*\*\*

### 1. 第26回大会を終えて

奈良女子大学 進藤雄三

本年5月20日(土)と21日(日)に、奈良女子大学にて第26回日本保健医療社会学会大会が開催され、初めての地方開催ながら123名の参加、35の一般報告を得て、盛会裏に大会を無事終えることができました。これも、理事の諸先生をはじめとする関係者の皆様のご支援の賜物とこの場を借りてお礼申し上げます。

今回大会を委任されてその運営に携わった者として、今後の大会運営について若干の提案をさせていただきます。

論点は大会の東京開催と地方開催の割合とその方法についてです。両者が適宜交代することが好ましいということに異論はないかと推測しますが、他方、毎年全国各地で開催するというのも現実的には困難であろうと思われるので、隔年交代、あるいは、3年に一度の周期で地方開催を組み込むことをひとつのルールとして定着させるというのはいかがでしょうか。開催引き受け校が見つかるかどうかポイントとなるので、事前に「決定」という類のものではありませんが、それぞれの地域での会員の「掘り起こし」と学会の「広報」効果から考えてみた場合に一考に値するのではないのでしょうか。

そして、もう一つこの地方開催と関連して思いついたのは会場の問題です。たとえば、関西地区でいえば、「大学」開催ではなく、交通の便のよい会議場を借用するという方策が考えられてもいいのではのでしょうか。これには何にも増して「費用」の問題が大きいと予測されますが、担当者の負担軽減、参加者の増大という二点においてメリットが考えられるので、検討課題としてもよいように思われます。

最後に、今大会の運営に関して、特に第2日目のシンポジウムの参加率が低下した点について、時間帯の構成、あるいは一般報告終了時間のスケジュール予測において、適切さを欠いたこと、また他にも多々運営上いたらぬ点でご迷惑をおかけしたことをお詫びするとともに、会員の皆様のご協力に重ねてお礼申し上げます。ありがとうございました。

## 2. 第26回日本保健医療社会学会大会印象記

九州看護福祉大学 佐藤林正

今大会は私の知る限りでは、これまで例会も含めて東京やその近辺で開催されていたが、はじめて首都圏を離れて関西地域で開催されたという点で、学会のPRや関西地域の会員の拡大に大いに寄与したのではないかと思われた。しかしながらその分だけ大会を運営された奈良女子大学の進藤先生のご苦勞も多かったに違いないと推察された次第である。

さて、大会印象記を執筆せよとの事務局からのメール依頼であるが、会場到着が遅れて会長講演の大半を聞き逃した私には、ここで述べるのもおこがましいと感じているが、メールに気づくのが遅かったので断り切れなかったと言うのが実状であることをまずご理解願いたい。本大会では、2つのシンポジウムが開催されたので、それを中心に俯瞰してみたい。大会初日に行われたシンポジウムでは、「21世紀における保健医療専門職」というテーマで中野秀一郎先生、中野進先生、中島紀子先生からの報告があった。現在21世紀論はいろいろな分野で花盛りであるが、私はここでいう21世紀とは前四半期程度の期間を指すのであろうという感覚で、また専門職種のあるべき論が論じられることを期待して各シンポジストの発表を伺った。3氏とも過去の専門職の状況や理論に立脚し、それが現在どのように変容しつつあるか自説を展開されたが、将来的な専門職像の提起ということでは物足りなさを感じた。とはいえ、中野(秀)先生の現在の医師は市場、行政、患者、技術の支配においてプロフェッションを否定されつつあるという論点は、市民(患者)主体の保健医療が強調されつつある中で非常に興味ある内容であった。また、中野(進)先生からなされた内容のうち、学会の細分化と総合一般化の指摘は、医学の発展の方向性を示唆するものと受け止められた。

二日目のシンポジウムは「健康日本21の実践と計画」というテーマで玖珠町、岐阜市、川崎生協に所属する方々からのいわば現場での実践報告を主としたものであった。いずれの報告も健康づくり活動や地域づくり活動で全国的に知られた地域での実践を基盤としているものだけにスライド等を交え豊富な内容であった。しかしながら、率直に言わしていただければ、3者の論点がかみ合わず、実績の報告に終始したのは残念という感じがした。健康日本21は本年度から厚生省が推進している健康政策であるが、この政策が地域でどのような意味合いをもっているか、政策内容が本当に健康を保持しプロモートするのか、リスクファクター対策でいいのか、まちづくりにどのように寄与するのか、等々の議論が必要ではなかったのだろうか。またさらには、当学会や保健医療社会学がこのような政策提起や運動の展開にどのように関与すべきなのかが抜けているような印象を受けた。

さて最後に、大会に参加して受けた全体的印象について少し述べたい。医学関連学会や社会学関連学会は沢山あるが、当学会はこれらの狭間にあって多種多様な保健医療問題研究を融合、包含、調整する性格を持っているのではないかと私は感じた。シンポジウムや報告の内容は理論研究から実践報告まで領域が広範囲であり、他の学会では接することのできない情報交換の場という観を強くした。当学会は、研究会時代から数えると30余年の歴史があり、会員も着実に増加していると聞いている。国や地方レベルの健康政策が重視されつつあるが、今後はますます実践的な意味合いで社会的寄与度が求められているし、社会的期待に応えていく必要があるのではないだろうか。

### 3 総会報告

総会では、資料1に示した4つの議案について検討していただきました。第1号議案の1については、年月を明記するように指摘があり、ホームページの開設についても質問がありました。第3号議案では、学会ホームページの運営管理など広報活動の組織強化について野口理事から説明があり、承認されました。名誉会員制度<資料2>について、質疑応答があり、再度理事会で検討することになりました。平成11年度決算報告<資料3>を承認いただき、新たな平成12年度の予算は、修正の上<資料4>のような内容で承認いただきました。なお、主要な収入源である会費納入率が低いので、事務局がさらに努力するようという要請がありました。(事務局 朝倉)

#### <資料1> 第26回日本保健医療社会学会総会次第

2000年5月20日 於：奈良女子大学

学会長 挨拶

議長選出

第1号議案 1999年度(平成11年度)事業報告

第2号議案 1999年度(平成11年度)決算報告

第3号議案 2000年度(平成12年度)事業計画

第4号議案 2000年度(平成11年度)予算計画

第1号議案 1999年度(平成11年度)事業報告

1. 第25回日本保健医療社会学会大会・総会を東京都老人総合研究所で開催
2. 保健医療社会学論集第11号発刊
3. 研究会を開催
4. 他学会共同研究会を開催
5. 看護研究部会を開催
6. ニュースレター1号、2号、総会案内号を発刊
7. 学会ホームページの開設

第2号議案 1999年度(平成11年度)決算報告

第3号議案 2000年度(平成12年度)事業計画

1. 役員の改選(1~2月頃)
2. 第26回日本保健医療社会学会大会・総会を奈良女子大学で開催
3. 第27回日本保健医療社会学会大会・総会の準備(東京大学、山崎喜比古大会長挨拶)
4. 保健医療社会学論集第12号発刊
5. 研究会を開催
6. 看護部会等の研究部会活動
7. 学会ホームページの運営管理など広報活動

8. ニュースレターの発行 年3回発行

9. 会員名簿の作成

10. その他

学会の運営体制について

名誉会員制度について

第4号議案 2000年度(平成11年度)予算計画

閉会

## <資料2>日本保健医療社会学会名誉会員制度規約(案)

第1条(目的) 日本保健医療社会学会規則第9条に基づき、日本保健医療社会学会に多大な貢献をした会員に敬意を表するため、名誉会員制度を設ける。名誉会員制度に関する事項は本規定によるものとする。

第2条(名誉会員に推挙できる要件) 日本保健医療社会学会は、原則として75歳以上の会員で、次の各号に該当する会員に名誉会員の称号を贈呈できる。

1. 代表理事を勤めた会員及び理事・監事の職を通算15年以上勤めた会員
2. その他上記の要件に準ずる活動として、本学会の社会的評価を高める功績及び学会の発展に特段の功績を挙げた会員

第3条(名誉会員選考手続き) 名誉会員の称号贈呈は、次の手続きを経て行われるものとする。

1. 日本保健医療社会学会理事は、理事会に対して名誉会員に該当する会員を推挙することができる。
2. 日本保健医療社会学会理事会は、理事から名誉会員の推挙があった場合には、速やかに審議を行い、名誉会員称号を贈呈することが妥当と判断した時には、本人の承諾を得た上で、総会に名誉会員の推挙を行う。
3. 日本保健医療社会学会は、総会において承認された会員に対して名誉会員としての称号を贈呈する。

第4条(名誉会員の会員適用事項) 日本保健医療社会学会の名誉会員には次の各項が適用されるものとする。

1. 名誉会員の称号を使用することを認める。
2. 本学会の会員としての会費が免除される。
3. 全国大会への参加費が免除される。
4. 役員選挙における選挙権、被選挙権は有しない。
5. 上記以外の事項については、一般会員と同じ扱いとする。

付 則

1. この規定は、2000年5月20日より施行する。

<資料3> 平成11年度決算報告

日本保健医療社会学会1999年度決算報告書 自1999年4月1日 至2000年3月31日  
 単位：円

収入の部				支出の部			
費目	予算額	決算額	差異	費目	予算額	決算額	差異
前期繰越金	584,339	584,339	0	印刷製本費	500,000	567,630	△67,630
会費収入	1,050,000	780,000	△270,000	通信・交通費	250,000	183,744	66,256
論集売上	15,000	36,000	21,000	謝金費	250,000	264,250	△14,250
受取利息	875	875	0	消耗品費	100,000	43,233	56,767
				会議費	50,000	23,068	26,932
				大会・総会費	100,000	14,700	85,300
				予備費	400,214	304,589	95,625
合計	1,650,214	1,401,214	△249,000	合計	1,650,214	1,401,214	249,000

<資料4>平成12年度予算計画

日本保健医療社会学会2000年度予算計画 自2000年4月1日 至2001年3月31日  
 単位：円

収入の部		支出の部	
前期繰り越し分	304,589	印刷製本費	500,000
会費収入 (4000円×280人 分、新会員5000円 ×20人分)	1,220,000	通信・交通費	200,000
論集売上	30,000	謝金 (事務局・広報のアルバイト謝金)	250,000
受取利息	875	名簿作成費	250,000
		消耗品費	50,000
		会議費	50,000
		部会・研究会活動補助費 (講師謝金を含む)	150,000
		予備費	105,464
合計	1,555,464	合計	1,555,464

#### 4 会員名簿作成のお知らせとお願い

2000年度版の会員名簿を作成いたします。同封の葉書に必要な事項を記入の上、8月末日までに事務局あてご返送ください。とくに、e-mail アドレスをお持ちの方は、連絡事務の簡素化のため、忘れずにご記入ください。なお、公開したくない個人情報については、その旨お申し出くだされば配慮いたします。ご協力よろしくお願い申し上げます。

最近入会された方には、何度も住所等を書いていただき恐縮ですが、ご理解ください。なお、すでに奈良の学会大会時に記入下さった会員には、葉書は入れてありません。

#### 5 会費納入のお願い

会費未納の方は、同封の振込用紙にて至急納入してください。

年会費は4000円です。納入の確認と同時に保健医療社会学論集(11号)を送付いたします。

会員名簿の作成、論集発行など今年度の学会運営のために、どうぞ会費の納入よろしくお願いします。

会費の納入状況など事務局への問い合わせは、XXXXXXXXXXもしくはXXXXXXXXXXまでお願いします。

#### 6 「保健医療社会学論集12号」の原稿募集

次号の学会誌に論文掲載をめざされる方は、査読と修正に要する期間を考慮に入れて、今年の12月20日までにご投稿ください。12号の発行は、2001年5月です。投稿規定につきましては11号を入手してご確認ください。

原稿送付先 〒113-0033 東京都文京区本郷7-3-1  
東京大学大学院医学系研究科健康社会学研究室内  
保健医療社会学論集担当事務局

##### ●編集後記

奈良の学会はいかがでしたでしょうか。修学旅行以来何十年ぶりかで対面した大仏様はとてとても大きく立派でした。また、大会会場となった奈良女子大の記念館講堂も風格のあるもので日本の女子高等教育の歴史を垣間見る思いでした。帰りの電車時間のためか観光のためかはわかりませんが、2日目のシンポジウムの参加者が激減してしまったのが残念でした。それでも、初めての東京以外での開催は無事成功裏に終了しました。大会会長と事務局長の一人二役で奮闘された進藤先生にあらためて感謝したいと思います。

なお、「研究情報」の欄は情報の提供が少ないため今回は休載にしました。より利用しやすい形式を工夫する必要があるかもしれません。また、学会ホームページの充実も今後の課題です。ニューズレター、および、ホームページの運用に関するご意見ご希望がありましたらご遠慮なくお知らせいただければ幸いです。(の)

1. 第27回日本保健医療社会学会大会のご案内

第27回日本保健医療社会学会大会を下記の要領にて開催します。21世紀最初の年の大会として、ますます広がる保健・福祉、医療・看護への社会的な関心と期待にこたえて、保健医療社会学の研究と教育を飛躍的に発展させる機会にしたいものです。会員の皆さまのふるってのご参加をお待ち申し上げます。会員外の方々の参加も心から歓迎いたします。

- ①日程 2001年5月19日(土)・20日(日)
- ②会場 東京大学山上会館・安田講堂
- ③大会長 山崎喜比古(東京大学大学院医学系研究科・健康社会学)

④プログラム概要

5月19日(土) (山上会館)

- 10:00~11:48 一般演題セッション(口演)  
要望演題セッションA「医療者・患者関係への新しい試み」(口演)
- 13:00~14:48 一般演題セッション(口演)  
要望演題セッションB「医療ミス・看護ミスへのアプローチ」(口演)
- 14:55~15:15 大会長講演「21世紀健康社会学の理論と方法」  
山崎喜比古(東京大学大学院)
- 15:20~16:40 シンポジウム「保健医療看護政策研究の論点」  
3報告「医療制度/政策」「看護政策/管理」「オルタナティブ・ヘルスケア」
- 16:45~17:30 学会長挨拶, 学会総会
- 17:50~19:50 懇親会

5月20日(日) (午前：山上会館 午後：安田講堂)

- 10:00~11:48 一般演題セッション(口演)  
要望演題セッションC「ライフとケア把握の新しい試み」(口演)
- 13:00~14:30 記念講演「21世紀日本医療への提言」  
今井澄(参議院議員、諏訪中央病院名誉院長)  
司会 米林喜男(順天堂大学)
- 14:40~16:40 シンポジウム「最先端医療への社会学的焦点化」  
基調講演 米本昌平(三菱化学生命科学研究所)  
3報告「不妊治療」「遺伝子治療」「移植医療」